

平成19年度 前期 (第二期) 研究教員

研究報告集録

第 2 号

はしがき

<中学校 特別活動>

- 将来の生き方を考え、主体的に進路を選択する能力の育成
～中学校におけるキャリア教育を通して～

宮古島市立久松中学校
嘉手苺 美智恵

平成19年9月

宮古島市立教育研究所

は し が き

本研究報告集録は、平成19年度第2期の研究員の半年間にわたる教育研究の成果をまとめたものであります。

本研究所研究員は、学校教育活動における日頃の教育実践から課題を見つけ、本研究所において子どもたちのために指導力や教師としての資質の向上を図るべく、教育理論や実践集録等の文献を参考にするとともに、琉球大学教育学部、宮古教育事務所等の御指導・御助言を仰ぎながら、研究を進めてきました。

研究のスタート当初は研究を進めていく過程に於いて、理論研究の進捗状況と検証授業とが計画通りにうまくリンクしないことから、研究計画や指導方法の見直しを迫られ、遅々として研究が進まず焦燥感に駆られた時期もありました。

しかしながら、本研究のテーマである「キャリア教育の推進」は子どもたちの夢と希望の実現を後押しする、極めて重要な領域であるとの使命感から奮い立ち、その後の検証授業に於いても子どもたちの中に「より良い生き方」について興味・関心が高りつつあることを確認し、現在は、教師としての自信と意欲に満ちあふれているように感じます。

本研究報告集録は以下に紹介する研究テーマの課題解決のため、めざす生徒像・研究の目標・研究仮説の設定等の理論研究と、教材研究・アンケート調査・検証授業の実施など、自己研鑽と指導力向上のため6か月にわたって研究に取り組んできた成果であります。

忌憚のない御意見・御指導を賜りますと共に、学校等において研究実践資料として活用していただければ幸いです。

○ 中学校（特別活動） 宮古島市立久松中学校
教 諭 嘉手苺 美智恵

〈 研究主題 〉

「将来の生き方を考え、主体的に進路を選択する能力の育成」
～ 中学校におけるキャリア教育を通して ～

終わりに、研究教員の研究に向けての真摯な姿勢に敬意を表すると共に、ご指導、ご支援頂いた琉球大学教育学部、宮古教育事務所、関係者の皆様方に心より感謝申し上げます。

平成19年 9月5日
宮古島市立教育研究所
所 長 島 袋 正 彦

平成19年度（前期）

研究報告書

〈 中学校 特別活動 〉

将来の生き方を考え、主体的に進路選択する能力の育成

～中学校におけるキャリア教育を通して～



宮古島市立教育研究所 第2期研究教員

宮古島市立久松中学校教諭 嘉手苺美智恵

目 次

I	テーマ設定の理由	1
II	研究目標	1
III	研究仮説	1
IV	研究の構想	2
V	研究計画	3
VI	理論研究	
1	キャリア教育について	
(1)	キャリア教育の定義	3
(2)	キャリア発達	3
(3)	沖縄県におけるキャリア教育の推進	6
2	自己理解を深める手だて	
(1)	キャリア・カウンセリングについて	7
(2)	キャリア・カウンセリングの形態	7
(3)	各学年（中学校）におけるキャリア・カウンセリング	8
3	望ましい勤労観・職業観	11
VII	実践研究	
1	キャリア教育についてのガイダンス	12
2	キャリア・カウンセリング	12
3	体験学習（職業講話）	13
4	授業実践	14
5	検証授業（公開）	15
6	生徒の実態把握と変容を見るためのアンケート調査	20
VIII	研究のまとめ	
1	仮説の検証	
(1)	本学級生徒の進路に対する考え方の変容	23
(2)	仮説1の検証	23
(3)	仮説2の検証	25
2	成果と課題	28
3	おわりに	28
IX	資料	
1	指導案	29
2	実施計画	34
3	その他の資料	36
	☆引用文献・参考文献	43

〈特別活動〉

将来の生き方を考え、主体的に進路を選択する能力の育成

～中学校におけるキャリア教育を通して～

宮古島市立久松中学校教諭 嘉手苺美智恵

I テーマ設定の理由

今日の厳しい経済情勢や産業・経済及び雇用の構造的変化に伴って、いわゆるフリーターやニートといった若者の増加が社会的な問題となっている。一方で、若者の勤労観・職業観の未熟さ、職業人としての基礎的資質・能力の低下、子ども達の精神的・社会的自立の遅れ、そして職業の選択・決定を先送りするモラトリアム傾向の高まりが指摘されており、近い将来我が国の経済・社会の基盤を危うくするのではないかとさえ懸念されているところである。これらのことを踏まえて、近年学校教育においては、「キャリア教育」の重要性が指摘されている。ここでいうキャリア教育とは、生徒に、働くことの意義など望ましい勤労観・職業観を育むことを目的とした、「生き方」教育のことである。

本県においては、若年者の失業率や新規高卒者の無業者率が、全国平均を上回っていることや、大学・短大等の新規学卒者の進路決定率が5割程度であるといった深刻な状況を踏まえ、その要因となる「進路の意志決定が遅い」「県内志向が高く、就職決定率が低い」等の、進路指導上の課題も指摘された。これらの課題を克服し、児童生徒一人一人が、自己のよさや可能性に気づき、夢や希望を持ち、その実現に向けて努力していくことを目的としたキャリア教育の充実が強く求められている。

このキャリア教育の一環として本校では、特別活動や総合的な学習の時間を中心に、「進路学習」や「職場見学」「職場体験」「上級学校訪問」等の取り組みが実施されている。しかし、これまでの進路指導に関わる生徒の実態をみると、「進路」を卒業時の進路のこととしてのみ捉えがちな生徒や、将来どんな職業に就きどんな働き方をしようとするのか等について考えることができない生徒が多いように感じる。これらのことは、自分の性格や能力を把握していないこと、あるいは自分が実際にもっている興味関心についての自己理解が乏しいことなどが、理由として考えられる。

以上のことから本研究では、キャリア教育の推進を目的として、生徒のキャリア発達段階を踏まえた活動を試みていく。具体的には、キャリア・カウンセリングの機能を生かした進路学習や相談活動を計画的に行い、さらに、生徒が職業講話やインタビューを積極的に体験するよう促していく。これらの活動を通して、生徒が自らの生き方を考え、将来に対する目的意識を持って主体的に進路を選択していく能力が育まれると考え、本研究テーマを設定した。

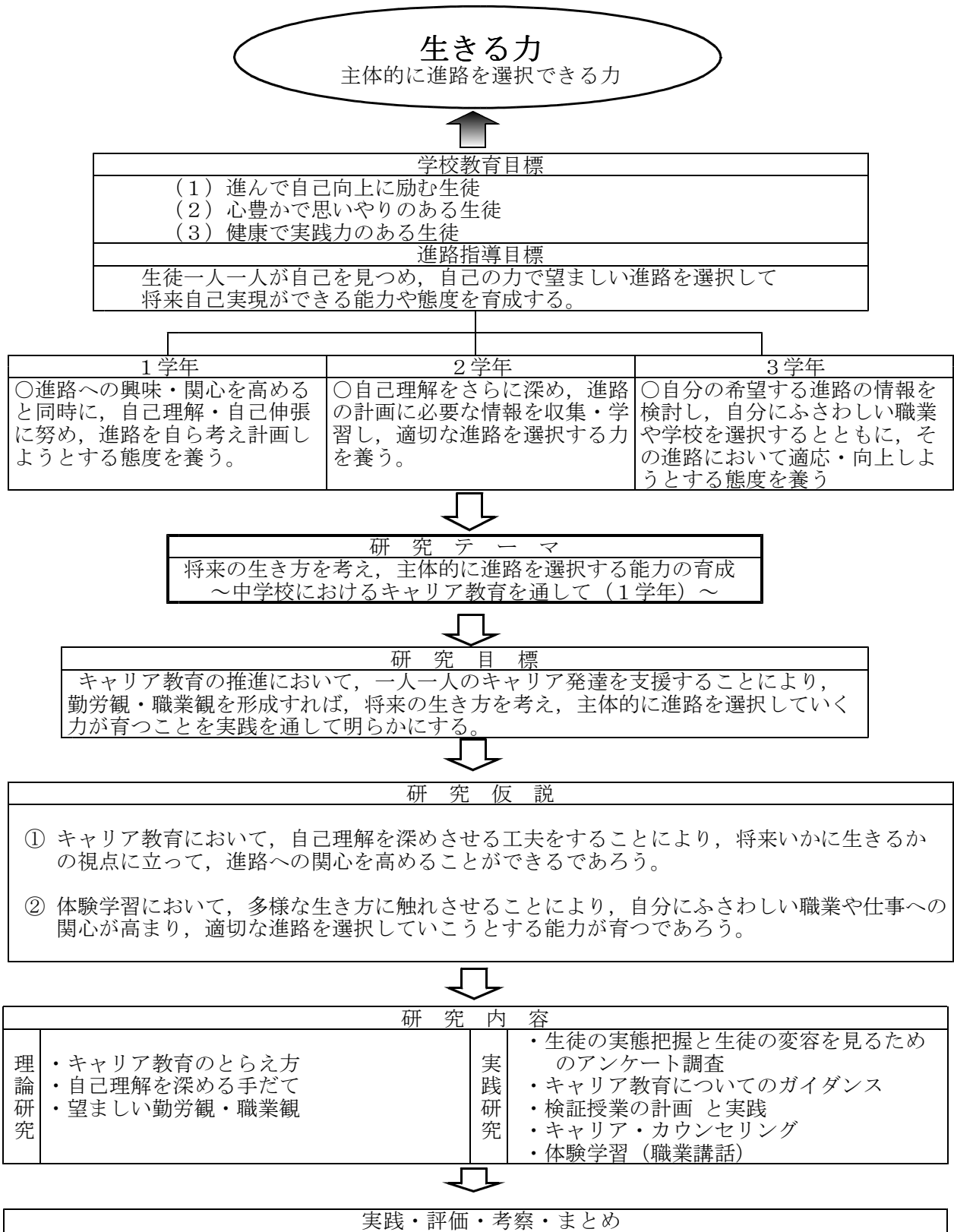
II 研究目標

キャリア教育の推進において、一人一人のキャリア発達を支援することにより、勤労観・職業観を形成すれば、将来の生き方を考え、主体的に進路を選択していく力が育つことを実践を通して明らかにする。

III 研究仮説

- 1 キャリア教育において、自己理解を深めさせる工夫をすることにより、将来いかに生きるかの視点に立って、進路への関心を高めることができるであろう。
- 2 体験学習において、多様な生き方にふれさせることにより、自分にふさわしい職業や仕事への関心・意欲が高まり、適切な進路を選択していこうとする能力が育つであろう。

IV 研究の構想図



V 研究計画

月	研究内容
4	・研究テーマ，研究の進め方について ・理論研究
5	・実態調査（保護者，学校へ協力依頼） ・生徒の実態把握のためのアンケート調査 ・検証授業① ・理論研究
6	・研究内容の進捗状況から今後の取り組みについて検討 ・検証授業②③ ・体験学習（社会人による講話）
7	・検証授業④ ・生徒の変容を見るためのアンケート調査 ・研究成果の作成
8	・研究成果・課題のまとめ ・報告書作成（冊子） ・原稿のまとめ
9	・研究成果報告会 ・研究の反省とまとめ ・年間計画の見直し

VI 理論研究

1 キャリア教育について

(1) 「キャリア教育」の定義

キャリア教育について文部科学省では，中央教育審議会答申（1999年）の中で「学校教育と職業生活の円滑な接続を図るため，望ましい勤労観・職業観および職業に関する知識や技能を身につけさせるとともに，自己の個性を理解し，主体的に進路を選択する能力・態度を育てる教育」と定義した。また，「キャリア教育の推進に関わる総合的調査研究協力者会議報告書（2004年）」は「キャリア」について「個々人が生涯にわたって遂行する様々な立場や役割の連鎖及びその過程における自己と働くこととの関係づけや価値の累積」とし，この概念に基づき「キャリア教育」を「児童生徒一人一人のキャリア発達を支援し，それぞれにふさわしいキャリアを形成していくために必要な意欲・態度や能力を育てる教育」ととらえ，端的には，「児童生徒一人一人の勤労観・職業観を育てる教育」とした。

(2) キャリア発達と発達課題

文部科学省，「キャリア教育推進の手引き」（2006年）によれば，「発達とは生涯にわたる変化の過程であり，人が環境に適応する能力を獲得していく過程である。その中で，キャリア発達とは，自己の知的，身体的，情緒的，社会的な特徴を一人一人の生き方として統合していく過程である。」としている。具体的には，「過去，現在，将来の自分を考えて，社会の中で果たす役割や生き方を展望し，実現することがキャリア発達の過程である」と説明している。

特に，「中学校段階は，児童期から青年前期にさしかかり，心身の発達は著しく，生徒は，自己の個性や能力，適性の理解を深めるとともに，興味・関心が自己から他者，そして社会の認識へと広がっていく」としている。そこで，各学校がキャリア教育に取り組むに当たっては，児童生徒のキャリア発達と課題を踏まえ，小学校・中学校・高等学校の各段階において，その

達成のために具体的な方法として、「人間関係形成能力」「情報活用能力」「将来設計能力」「意志決定能力」の「4つの能力」を育成していくことを強調している。

中学校段階におけるキャリア発達の特徴

1 年	2 年	3 年
<ul style="list-style-type: none"> ・自分のよさや個性が分かる。 ・自己と他者の違いに気づき、尊重しようとする反面、自己否定などの悩みが生じる。 ・集団の一員としての役割を理解し、それを果たそうとする。 ・将来の職業生活との関連の中で、今の学習の必要性や大切さを理解しようとする。 ・学習の過程を振り返り、その選択場面に生かそうとする。 ・将来に対する漠然とした夢や憧れを抱いている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の言動が、他者に及ぼす影響について理解する。 ・社会の一員としての自覚が芽生えとともに、社会や大人を客観的に捉えるようになる。 ・体験等を通して、勤労の意義や働く人々の様々な思いが分かる。 ・よりよい生活や学習、進路や生き方等を目指して自ら課題を見出していくことの大切さを理解する。 ・将来への夢を達成する上での現実の問題に直面し、模索する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己と他者の個性を尊重し、人間関係を円滑に進めようとする。 ・社会の一員としての参加には義務と責任が伴うことを理解する。 ・係・委員会活動や職場体験で得たことを、以後の学習や選択に生かそうとする。 ・課題に積極的に取り組み、主体的に解決していこうとする。 ・将来設計を達成するための困難を理解しそれを克服するための努力に向かう。

文部科学省2006

「キャリア教育推進の手引～児童生徒一人一人の勤労観、職業観を育てるために～」(p36)

学校段階別に見た発達段階、キャリア発達課題

	小学校段階	中学校段階	高等学校段階
発達段階	進路の探索・選択にかかる基盤形成の時期	現実的探索と暫定的選択の時期	現実的探索・思考と社会的移行準備の時期
キャリア発達課題	<ul style="list-style-type: none"> ○自己及び他者への積極的関心の形成・発展 ○身の回りの仕事や環境への関心・意欲の向上 ○夢や希望、憧れる自己イメージの獲得 ○勤労を重んじ目標に向かって努力する態度の形成 	<ul style="list-style-type: none"> ○肯定的自己理解と自己有用感の獲得、達成感 ○興味・関心等に基づく職業観・勤労観の形成 ○進路計画の立案と暫定的選択 ○生き方や進路に関する現実的探索 	<ul style="list-style-type: none"> ○自己理解の深化と自己受容 ○選択基準としての職業観・勤労観の確立 ○将来設計の立案と社会的移行の準備 ○進路現実的吟味と試行的参加

国立教育政策研究所生徒指導研究センター

「職業観・勤労観を育む学習プログラムの枠組み(例)」より抜粋

キャリア発達課題に対し重点的に育成すべき能力・態度（中学校例）

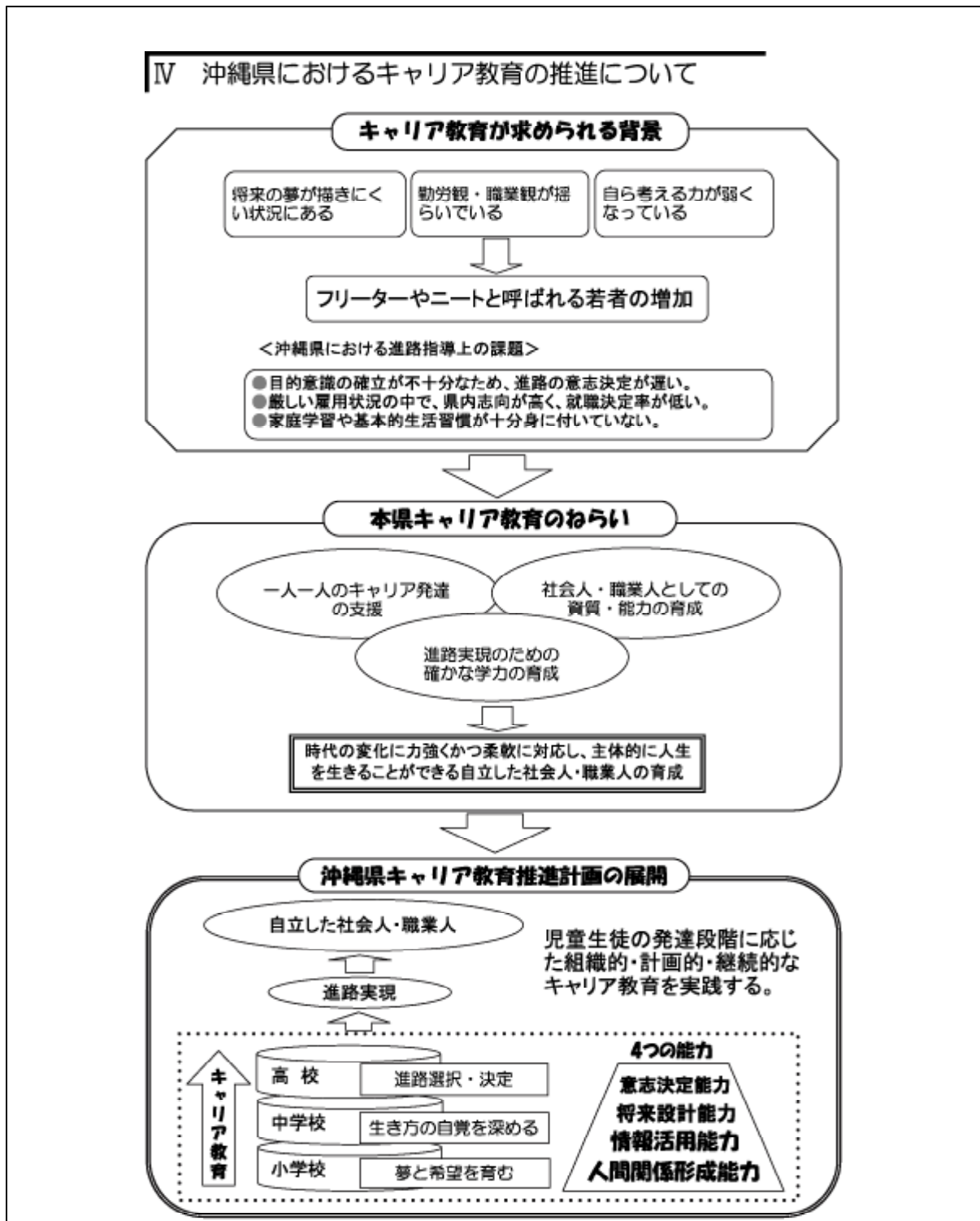
※「職業観・勤労観を育むための学習プログラムの枠組み（例）」を参考に例示

発達課題	発達を促すために育成することが期待される能力・態度	
	低・中学年	中・高学年
・肯定的自己理解と自己有用観の獲得	<p>【人間関係形成能力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新しい環境や人間関係に適応する。 ・自分のよさや個性がわかり、他者のよさや感情を理解し、尊重する。 ・人間関係の大切さを理解し、コミュニケーションスキルの基礎を習得する。 ・自分の言動が他者に及ぼす影響が分かる。 	<p>【人間関係形成能力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他者に配慮しながら、積極的に人間関係を築こうとする。 ・リーダーとフォロアーの立場を理解し、チームを組んで互いに支え合いながら仕事をする。 ・自分の悩みを話せる人を持つ。 <p>【将来設計能力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の役割やその進め方、よりよい集団活動のための自分の役割やその方法等が分かる。 <p>【意志決定能力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己の個性や関心に基づいて、よりよい選択をしようとする。
・興味・関心に基づく職業観・勤労観の形成	<p>【情報活用能力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体験等を通して、勤労の意義や働く人々の様々な思いが分かる。 <p>【将来設計能力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・将来の夢や職業を思い描き、自分にふさわしい職業や仕事への関心・意欲を高める。 ・様々な職業の社会的役割や意義を理解し、自己の生き方を考える。 	<p>【情報活用能力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・将来の職業生活との関連の中で、今の学習の必要性や大切さを理解する。 <p>【将来設計能力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の役割やその進め方、よりよい集団活動のための自分の役割やその方法等が分かる。 <p>【意志決定能力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題に積極的に取り組み、主体的に解決していこうとする。
・進路計画の立案と暫定的選択	<p>【情報活用能力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・産業・経済の変化に伴う職業や仕事の変化のあらましを理解する。 <p>【将来設計能力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常生活や学習と将来の生き方との関係を理解する。 ・様々な職業の社会的役割や意義を理解し、自己の生き方を考える。 ・進路計画を立てる意義や方法を理解し、自分のめざすべき将来を暫定的に立案する。 <p>【意志決定能力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己の個性や興味・関心に基づいて、よりよい選択をしようとする。 ・選択の意味や判断・決定の過程、結果には責任が伴うことを理解する。 	<p>【情報活用能力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上級学校等の種類や特徴及び職業に求められる資格や学習歴が分かる。 ・係・委員会活動や職場体験等で得たことを、以後の学習や選択に生かす。 <p>【将来設計能力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の将来やその進め方、よりよい集団活動のための自分の役割やその方法等が分かる。 ・将来の進路希望に基づいて当面の目標を立て、その達成に向けて努力する。 <p>【意志決定能力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員や保護者と相談しながら、当面の進路を選択し、その結果を受け入れる。 ・課題に積極的に取り組み、主体的に解決していこうとする。
・生き方や進路に関する現実的探索	<p>【情報活用能力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・産業・経済の変化に伴う職業や仕事の変化のあらましを理解する。 ・生き方や進路に関する情報を、様々なメディアを通して調査・収集・整理し、活用する。 ・体験等を通して、勤労の意義や働く人々の様々な思いが分かる。 <p>【将来設計能力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な職業の社会的役割や意義を理解し、自己の生き方を考える。 ・将来の夢や職業を思い描き、自分にふさわしい職業や仕事への関心・意欲を高める。 ・進路計画を立てる意義や方法を理解し、自分のめざすべき将来を暫定的に立案する。 <p>【意志決定能力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己の個性や興味・関心に基づいて、よりよい選択をしようとする。 ・選択の意味や判断・決定の過程、結果には責任が伴うことを理解する。 ・よりよい生活や学習、進路や生き方等をめざして、自ら課題を見出していくことの大切さを理解する。 	<p>【情報活用能力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上級学校等の種類や特徴及び職業に求められる資格や学習歴が分かる。 ・必要に応じ、獲得した情報に創意工夫を加え、提示、発表、発信する。 <p>【将来設計能力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・将来の進路希望に基づいて当面の目標を立て、その達成に向けて努力する。 <p>【意志決定能力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員や保護者と相談しながら、当面の進路を選択し、その結果を受け入れる。 ・課題に積極的に取り組み、主体的に解決していこうとする。 ・学習や選択の課程を振り返り、次の場面に生かそうとする。

(3) 沖縄県におけるキャリア教育の推進

沖縄県教育委員会は「沖縄県キャリア教育推進プラン」(2006年)の中でキャリア教育のねらいとして、「児童生徒一人一人のキャリア発達の支援」「社会人・職業人としての基本的資質・能力の育成」「進路実現のための確かな学力の育成」の3つの柱を掲げ、時代の変化に力強くかつ柔軟に対応し、主体的に人生を生きることができる自立した社会人・職業人の育成を強く求めた。実践に当たっては、児童生徒の発達段階におけるキャリア発達課題を踏まえ、全教育活動を通じて、組織的・計画的・継続的な取り組みを強調している。

沖縄県キャリア教育推進プラン ―児童生徒一人一人の自己実現を目指して― (P13)



2 自己理解を深める手だて

(1) キャリア・カウンセリングについて

文部省「中学校・高等学校進路指導の手引きー進路指導相談編ー」（昭和57年）によると、キャリア・カウンセリングは「生徒一人一人を対象として、個別相談やグループ相談を通じて進路への関心を高め、自己および現実理解の深化や、自己および現実受容を促し、人生設計やそれに伴う進路選択の能力を伸ばして、将来の生活における適応と自己実現がより確実に達成できるように、問題解決能力と自己指導能力の発達を促すための援助活動である」と述べている。さらに、日本進路指導学会（1996年）では、学校におけるキャリア・カウンセリングの必要性とその役割として、『自己概念の明確化と職業的役割の認識』『自己指導能力、主体的進路選択能力の伸長』『自己の能力、適応、興味・関心・希望進路を総合的に配慮した進路選択能力』を養うことにある。と述べ、中学校、高等学校の教育相談において、キャリア・カウンセリングの重要性を示した。中学生は心身の発達が顕著な時期だけに、精神的（心理的）にも一番不安定な時期でもある。初めての進路選択という課題を抱えながら、進路の問題や個人的な悩みなど、相談によっては幅広い対応が必要となってくることもあり得る。

そこで、本研究では、生徒一人一人の心に迫るカウンセリングで、自己理解を助け、力強い選択を促すためにも、キャリア教育と相互に補完し合いながら、生徒の発達課題等を解決していく形でキャリア・カウンセリングを実施することにした。

本学級では、カウンセリングの機能を生かした学級活動を展開していく中で、個別相談に結びつけられるよう、学級活動とキャリア・カウンセリングとの連携を試みることにした。具体的には、エンカウンターによる自己理解・他者理解（学級活動）と、グループカウンセリング（気の合う仲間5、6名による自己探求ゲーム）と、リフレーミング、さらに個別の相談を行うことで、学習成果の深化を図った。

(2) キャリア・カウンセリングの形態

①肯定的な自己理解を助けるカウンセリング

現在の自分について、主観と客観の両面から捉え、気づくことによって、肯定的な自己理解を促す。

②計画立案能力を育てるカウンセリング

現在の自分から、将来・未来という視点を持つことによって、より具体的な進路選択への意識を高めていく。

③選択能力を育てるカウンセリング

自己理解に基づいて適性や志向を通して、周囲の情報や経験の中から、主体的に吟味選択し意志決定する能力を育てる。

④人間関係能力を育てるカウンセリング

他者の個性を尊重し、自己の個性を発揮しながら、様々な人々とコミュニケーションを図り、協力・共同してものごとに取り組む。

⑤情報収集・活用能力を育てるカウンセリング

学ぶこと・働くことの意義や役割およびその多様性を理解し、幅広く情報を活用して、自己の進路や生き方の選択に生かす。

⑥望ましい価値観形成を促すカウンセリング

自他を尊重し、自分らしい生き方について思考する姿勢を育てることで、自己の在り方への意識を高めていく。

「中学生の進路力を育てる総合的な生き方の学習プラン」（2001, 仙崎武監修）より抜粋

(3) 各学年（中学校）におけるキャリア・カウンセリング計画の例

「中学生の進路力を育てる総合的な生き方の学習プラン2001」 p 112～ p 114より抜粋

1学年目標：適応と進路計画（将来の夢等）

◎中学校の生活に適応するとともに将来の夢を育み、これからの中学校生活に目的や意欲を持つようにする。また、人間関係を円滑にし、充実した中学校生活を送れるようにする。

	相談項目と相談内容	留意点		相談項目と相談内容	留意点
Ⅰ 中学校の ガイダンス	1. 入学の感想 ①入学しての感想を語る ②イメージと違う点・同じ点 2. 小学校との違い ①小学校との違いや小学校の時の生活の様子 3. 中学校への期待 ①中学校での目標 ②やりたいこと ③入部希望の部活動 4. 学校への参加 ①学級への期待 ②友達はできたか ③最も仲のよい友人は ④係活動の様子	・入学1ヶ月後ぐらいに行う。 ・最初なので気分を和らげるようにする。 ・あまり追求しない。 (仲間相談 二者相談)	Ⅲ 職業観 ・ 勤労観	2. 職業調べ・職場体験の結果 ①どんな調査・体験をしたのか ②実際に職場をみてどうだったか ③楽しかった点・つらかった点 ④将来この職業に就きたいと思うか 3. 将来の生き方 ①将来どんな職業に就きたいか ②何を対象とする職業に就きたいか ③どんなことを目標に働きたいか ④将来どんな大人になりたいか	・相談活動プラス職業理解の学習の評価の場としてもとらえたい。 (二者相談)
	Ⅱ 中学校の 学習と 進路の 計画	1. 中学校の学習 ①好きな教科・嫌いな教科 ②中学校での学習の悩みや不安 ③学習計画の立て方 2. 中学校生活への適応 ①どんな1学期だったか ②友人関係は小学校の時の生活の様子 ③学級での様子はどうか ④部活動の活動はどうか 3. 将来の夢と希望 ①将来の夢や希望はなにか ②どうしてなりたいと思ったか（いつごろからか） ③夢実現のための努力は		・生徒が相談してよかったと思えるように配慮する。 ・中学校生活への適応を中心に進める。 (二者相談 三者相談)	Ⅳ 肯定的な 自己理解
Ⅲ 職業観 ・ 勤労観	1. 身近で働く人々へのインタビュー ①働く人にインタビューした感想 ②インタビューしてどんなことがわかったか ③働いてどんなことだと思うか ④何のために働くのだろうか	・体験活動や学級活動の学習の事後指導の場とする ・体験活動の事後指導では、生徒の発言を内面化につなげる。生徒の口からいろいろなことを発言させたい。 ・中学校生活への適応	Ⅴ 選択教科の ガイダンス	1. 充実した中学校生活 ①充実した学校生活を送るためにはどんなことが必要か ②中学校生活の生きがいは何か 2. 選択教科の選択に向けて ①どんな教科が好きか ②将来進みたい方面 ③どの教科を選択するか	・選択教科の選択を将来の進路選択に結びつけるようにしたい。 (二者相談)

2 学年目標：職業的方向付けと探索および情報の収集・活用能力を高める

◎将来の自己実現には職業的自己実現が不可欠であることを知り、望ましい職業観・勤労観を身につける。また、情報の集め方、活用の仕方を理解するとともに、産業や職業・上級学校を理解する。

	相談項目と相談内容	留意点		相談項目と相談内容	留意点
I 適応と自覚	1. 1年時の反省と2年の抱負 ①1年時の反省 ②2年生の抱負 ③どんな学級にしたいか 2. 2学年をデザインする ①どうして不適応が起こるのか ②どうしたら不適応が解決できるか ③どう2年生をデザインするか ④2年生での生きがい ⑤どんな人になりたいか	・自らこの学年をデザインしようとする意欲を持たせたい。 (仲間相談 二者面談)	IV 勉学観、進路情報の収集・活用	1. 学習と勉学観 ①なぜ勉強するのか ②得意教科の伸長と不得意教科の克服 2. 学ぶ制度と機会 ①中学卒業後の自分の進路 ②中学卒業後の進路にはどのようなものがあるか ③学ぶ制度や機会にはどのようなものがあるか ④上級学校についての情報はどのようにして集めたらよいか	・生徒はこの時期、なぜ勉強しなければならないかなど、学習に対する悩みを抱き始める。その結果、勉強に対する意欲が消失しがちである。この時期になぜ勉強するのかをしっかりと考えさせたい。 ・漠然と中学卒業後の進路を考え始める時期である。高校だけでなく、いろいろな学ぶ機会があることを広く学ばせたい。
	II 職業への関心、職業観・勤労観 1. 職業の世界 ①自分が就きたい職業をいくつかあげる ②どうしたらいろいろな職業を知ることができるか ③テレビに出てくる職業をあげる 2. 職業観・勤労観の充実 ①人は何のために働くのだろうか ②希望職業と働きがい ③職業体験の感想や職業人の職業観にふれた感想	・職業をできるだけ身近なものに感じさせる。 ・情報の収集方法を自分で考えさせたい。 ・地域社会の教育力を活用する。 (二者相談)		V 進路計画の吟味 1. 将来の展望と進路探索 ①希望進路の変更とその理由 ②自分にとっての生きがいとは ③生きがいを見つけるにはどうしたらよいか 2. 計画実現に向けての努力 ①希望進路実現のためにすべきことは何か ②実現に向けてどのような計画を立てているのか ③希望実現の障害は何か 3. 選択教科の吟味 ①2年生の学習や選択教科のまとめや反省んなよい点があるか ②3年生の選択教科について	・希望進路に以前の記録から変更があった場合、その理由を聞き、消極的な理由であった場合、肯定的な自己理解をするようアドバイスする。 ・3年生が受験期を迎えることで、2年生の上級学校に進学しようとするモチベーションも高くなる。 ・興味や関心を将来の希望進路の選択に結びつけるようにしたい。 (二者相談 ・三者相談)
III 自己理解の深化	1. 自己理解の深化 ①1年生の時のカウンセリングの結果を見せ、感想を聞く ②進路学習のワークシートから自分のよい点を見つける ③教師のポートフォリオされた観察記録(逸話記録)を見て自分のよい点を言う 2. 人間関係の充実 ①友人からの評価、コメントを見て自分の人間関係におけるよい点を知る ②友人にどんなことをされるとうれしいか ③自分は友人に対してどんなことができるだろうか	・カウンセリング記録をポートフォリオしておく (二者相談 三者相談)			

3 学年目標：中学卒業後の進路選択および希望進路の実現

◎中学卒業後の進路を選択できるようにする。希望進路実現に向けての努力をする。

	相談項目と相談内容	留意点		相談項目と相談内容	留意点
Ⅰ 進路選択への自覚と希望職業	1. 最上級生としての自覚 ①3年生の特徴 ②今までの振り返ってみよう ③豊かな学校生活を送るためにはどうしたらよいのだろうか ④3年生をデザインしてみよう 2. 将来の生き方 ①将来の職業規模 ②希望職業を持つことが必要 ③なぜ希望職業をもつことが必要か ④希望職業実現のための道筋	・今までの生活を振り返らせ、自分を生かす場面を中心にこの1年間をデザインさせたい。 ・どうしても目先の進路にとらわれがちであるが、将来の職業や進路に目を向けさせ、その前段階として中学校卒業後の進路を考えさせたい。 (仲間相談 二者相談)	希望進路の確認	③将来の希望と中学校卒業後の希望進路の関係(つながり)を確認する。 ④将来の希望進路までの道筋を確認する。 ⑤自己理解の再確認(自分のことを自分でどのくらい知っているか。) ⑥希望進路についてどの程度知っているのかの確認 ⑦保護者の考えを聞く	・新たな自分を発見し、自信を持たせたい。 ・保護者との人間関係もしっかりとつけておきたい。 (二者相談 三者相談)
	Ⅱ 進路情報の収集と学習 1. 進路情報の収集 ①中学卒業後の進路先の収集の仕方(どうやって進路先を探すか) ②中学卒業後はどんなことをやりたいのか(上級学校へ行きたいのか就職を希望するのか) ③上級学校へ進学したい場合には上級学校で何をやりたいのか 2. 学習への取り組み ①学級として学習への取り組みの様子はどうか ②個人としてはどうか ③効果的な学習の仕方	・情報の収集の仕方や能力を高めさせたい。 ・学習への意欲を高めさせるとともに学習の習慣を確実なものしたい。 (二者相談 三者相談)		Ⅳ 進路選択の条件 1. 進路選択の条件 ①進路選択の条件を明確化する ②希望進路先で何をやりたいのか何ができるのかを確認する ③進路先での生きがいは何か 2. 進路決定のための条件 ①自分のやりたいことができるのか ②自己実現性(その進路先に行つて自分は生きることができるのか) ③合格可能性・実現性(いまどのくらい努力しているのか) ④家庭の考え、経済性はどうか	・地理的なもの、経済性、実現性、将来性、自己実現性を考えるように配慮する。 ・第2希望も考えさせる。 ・短所は見方を変えれば長所になることを伝える。 ・保護者と話し合うことの大切さも教えたい ・学級活動における進路学習のポートフォリオを十分に活用したい。(二者相談 三者相談)
Ⅲ 進路情報の活用と	1. 進路情報の収集結果 ①進路情報を収集した結果を聞く ②「一日体験」等の体験活動の感想を聞く ③各進路先の自分なりの違いや特徴を聞く 2. 中学校卒業後の希望進路の確認 ①自分の希望進路先の確認 ②希望進路選択の理由	・体験した内容や調べた内容を言語化することにより内面化につながっていくので、自分の言葉で表現させる。 ・ポートフォリオされた過去の希望進路との変化を確認する。	Ⅴ 進路希望の実現	1. 実現に向けての計画・実行 ①希望進路実現に向けての計画の確認 ②希望進路を目指して努力することの自覚 ③不安の克服 ④将来どんな人間になりたいか	・自分の可能性を信じ自信を持って希望進路へ向かって努力する姿勢をつくりたい。 ・不安な部分を出させ、アドバイスする。 (二者相談)

3 望ましい勤労観・職業観

生徒が自己の将来の生き方を考え・適切な進路を選択していく上で、望ましい職業観・勤労観の形成を図ることは重要である。「児童生徒の職業観・勤労観を育む教育の推進について-調査研究報告書-」(国立教育政策研究所生徒指導研究センター 平成14年)によれば、勤労観・職業観の捉え方として、「勤労観は働くことそのものに対する個人の見方や考え方、価値観・・・(以下省略)」「職業観は人が生きていく上での職業の果たす意義や役割についての認識・・・(以下省略)」と説明している。「それらの育成にあたっては、『自分なりの勤労観・職業観』という多様性を大切にしながらも、共通する土台として、表で示す『望ましさ』を備えたものを目指す」よう求めた。

三村隆男(2004)は、キャリア教育の主目標である、勤労観・職業観の育成は、それをどのように捉えるかによって、キャリア教育の実践に大きな影響を与え、その捉え方を明確にした。三村は、勤労観を基盤に職業観が成り立つという構造を示した中で、勤労観について、「日常生活の中での役割の理解や考え方と役割を果たそうとする態度、及び役割を果たす意味やその内容についての考え方(価値観)」とした。また、キャリア教育を展開するにあたっては、職業理解に内容が偏らないよう提案した。学校の係活動や清掃活動、ボランティア活動、家の手伝いなど、役割を幅広く捉え、日常生活における学習の内容が、将来の職業や人生とどのように関連するのか理解させる必要性を唱えた。それによって、将来どのように社会に参加し、どのような役割を果たすのかという視点に立ち、社会性を含めた、望ましい勤労観・職業観が形成されるものと考えられる。

児童生徒の職業観・勤労観を育む教育の推進について -調査研究報告書-

国立教育政策研究所生徒指導研究センター 平成14年

「職業観・勤労観」は、職業や勤労についての知識・理解及びそれらが人生で果たす役割についての個々の認識であり、職業・勤労に対する見方・考え方、態度等を内容とする価値観である。その意味で、職業・勤労を媒体とした人生観ともいうべきものであって、人が職業や勤労をとおしてどのような生き方を選択するのかの基準となり、また、その後の生活によりよく適応するための基盤となるものである。

勤労観・職業観の育成にあたっては、「自分なりの勤労観・職業観」という多様性を大切にし以下のような「望ましさ」を備えたものを目指すことが求められる。

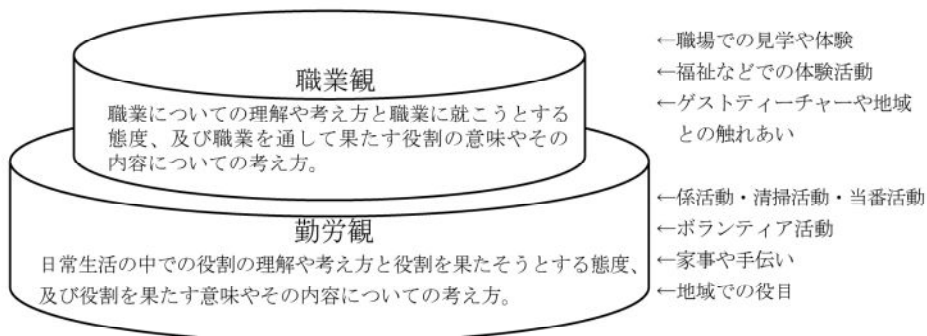
《理解・認識面》

- ①職業には貴賤がないこと
- ②職務遂行には規範の遵守や責任が伴うこと
- ③どのような職業であれ、職業には生計を維持するだけではなく、それを通して自己の能力・適性を発揮し、社会の一員としての役割を果たすという意義があること

《情意・態度面》

- ①一人一人が自己及びその個性をかけがえのない価値あるものとする自覚
- ②自己と働くこと及びその関係についての総合的な検討を通じた、職業・勤労に対する自分なりの構え

【勤労観と職業観の構造図】



三村隆男(2004)
「キャリア教育入門」(p65)

Ⅶ 実践研究

1 キャリア教育についてのガイダンス

(1) ねらい

- 「キャリア学習の内容」について学習することにより、進路への関心を高める。
- 「フリーター」「ニート」についての知識を広げ、職業への関心や理解を深める。

(2) 期間：5月16日～5月31日

(3) 方法：朝の短学活や放課後の短学活の時間（20分）を使う
（学級担任との調整を十分に行う）

(4) 資料：「フリーター・ニートになる前に読む本」（鳥居徹也：船橋情報ビジネス専門学校）
を使用

学習シート（2007/5.16）

1. フリーターに年齢制限があるってホント？

誰もかれもがフリーターを名乗れないって知っていましたか？
次のクイズを考えみてください。

Q. フリーターには年齢制限があります。何歳から何歳まででしょうか？

答

歳～

歳まで

※国の定義（内閣府2003年）

歳～ 歳の年齢層（学生と主婦をのぞく）の内、
パート・アルバイトおよび働く意志のある無職の人

その数は2001年は417万人、2004年春は推定430万人を超え、
2010年にはなんと476万人に達するそうだ。

若年労働人口の5人に1人がフリーターになる！

-UFJ総合研究所による-

簡単にいうと、「働く意志」
はあっても正社員としての職
をもてない若者といえます

※（他のシートは資料編に添付）

2 キャリア・カウンセリング

(1) ねらい

- グループでキャリア・カウンセリングを行うことにより、自他理解を深め、人間関係を円滑にしていくとともに、充実した中学校生活を送れるようにする。

(2) 期間：6月5日（水）～6月7日（金）

(3) 時間・場所 給食後 午後1時30分～2時（音楽室）

(4) 方法

生徒：仲間同士で小学校時代の（またはこれまでの）学習を振り返り、中学校の学習や生活への決意を促す。

教師と仲間同士でワークシートを交換し合い、自他理解へのきっかけをつくる。

教師：相談後に生徒が満足感・充実感を得られるように、発達段階や個々の生活状況を考慮しながら丁寧な対応を心がける。

解決のための資料や情報、助言を与え、自己解決ができるように導きながら、生徒が求めているものは何か、解決したいことは何かなどを明らかにし、共感的理解を深める。

(5) 資料：気の合う仲間（5, 6名）による自己探求ゲーム（※シートは資料編に添付）

生徒の感想

- ・みんなの顔が笑っているのを見て、なんかうれしくなった。心もゆったりした。(男子)
- ・私は人に言われたら、絶対にそうじゃないと自己否定してしまうけど、今日はなぜが素直になれて嬉しかった。(女子)
- ・みんなが自分の事をよく知っているなあと思ったし、自分にもこんないいところがあったんだなあと気づかされてなんだか嬉しくなった。(男子)
- ・自分の良いところを言われるのはあんまりないから恥ずかしかった。友達の良いところも分かってよかった。(男子)
- ・性格診断で、自分の思っていたのと全然違うのもあって、びっくりした。(女子)
- ・自分ではなんとも思っていないことをみんながほめてくれたりして、うれしかった。(男子)
- ・皆がオレのことを堂々と言ってくれてうれしかった。オレの事をみんなわかってくれていたんだな。(男子)



3 体験学習（職業講話）

(1) ねらい

- 社会の各分野で活躍している方を招き、お話を聞くことによってその職業への理解を深め、勤労への関心を高める。
- その人の仕事に向かう姿勢や生き方にふれることにより、仕事の苦労や喜び・生きがいを知り、またその仕事が社会とどのように関わっているのかを理解する。

(2) 期日：6月19日（火）

(3) 時間：5・6校時（総合的な学習の時間）

(4) 場所：久松中学校音楽室

(5) 講師





宮古テレビ株式会社 代表取締役社長 藤村明憲 氏
宮古島東急リゾート 総料理長 宮元治雄 氏

(6) 生徒の感想

- ・今までは、自分が将来働くことについて、全く考えていなかったのに、今日の講話を聞いて、働くことを少し考えるようになった。(男子)
- ・働くことで大切なのは、人間関係だということを知って驚いた。(女子)
- ・常にお客さんの気持ちを考えて働いているというところに感動した。(女子)
- ・働くことは、人を喜ばせたり、楽しませたり、助けたりという「他の人の役に立つ」ことだということが分かった。(男子)
- ・働くことは大変だけど、楽しいこともいっぱいあるし、やっぱり働きたいと思った。(男子)



4 授業実践

月/日	学習内容	学習活動	結果（成果と課題） ◎課題への対応
5/18 (金) 学級活動	「私は誰でしょう？」 人間関係形成能力 (自己理解 ・他者理解)	〈エンカウンターによる自己理解・他者理解〉 「自分の秘密」カードに将来の夢、趣味、自分のエピソードなどを記入し、教師がその内容を匿名で発表する。生徒たちは誰の「秘密」かを当てる。楽しく取り組むレクリエーションを通して、他者理解と進路意識を深め、進路学習への意欲を高めていく。	・自分を振り返ったり、友達 のよさや特徴を知ること で、進路学習への関心が高 まったが、自己の内面 の変化や成長について 考えを深めることが できなかった。 ◎グループカウンセリング とリフレーミングで自己 を肯定的に見つめるこ とができるよう促して いく。
			
6/1 (金) 学級活動	「職業や産業について調べよう」 情報活用能力 (情報収集・探索能力 ・職業理解能力)	〈新聞の記事と広告を切り抜いて NIE〉 社会的情報を総合的に発信する新聞紙面から、将来のヒントとなる情報（夢・職業・生き方・人生観）等を身近にある新聞紙面から「将来の夢や職業」「自分の生き方」「人生観」を考えるヒントとなる情報を探し出すことによって、職業への理解を深め主体的に進路を選択していくとする態度を育てていく。	・職業に関する情報を収集 することによって、職業 の種類について理解する ことはできたが、「生き 方・人生観」について 情報収集できなかった。 ◎短学活で人が生きてい く上で負う様々な役割 について学習し、自分 なりの生き方や進路を 考えさせる。
			
6/29 (金) 道徳	「山奥の請け負い配達夫さん」 働くことの尊さ 4－(5) ○人間関係形成能力 ○情報活用能力 ○将来設計能力 (役割把握・認識能力 ・計画実行能力) ○意志決定能力 (選択能力・課題 解決能力)	資料には、優れた画家でありながら、長年山奥で請け負い配達夫をつとめる渡辺淳氏の姿が描かれている。社会に対する貢献や自分自身の生き方の充実喜びを感じながら、老いても勤労を続ける渡辺氏の姿から勤労の意義を捉えさせる。また、生徒の意識のアンケート結果や身近な方からのメッセージを聞くことにより、自信や課題意識をもたせ、勤労に対する意欲を高めていく。 ※「身近な大人の仕事に対する考え」 保護者インタビュー（VTRを作成）	勤労に伴う苦勞や、困難に負 けそうになる人間の持つ弱 さ等についての理解から、 奉仕の精神や生きる充実 感について考えることが できた。また、学級での 係活動や、家庭での仕事 に積極的に取り組もうと する意欲も向上した。 ◎自分の将来の生き方 や人生についてイメ ージするために、「価値 観」について話し合う。



・吉田泰治 『分かる授業創造プラン（道徳学習指導案）』岩手県総合教育センター2005 を参考にした。

7/11
(水)
学級活動
本時

「価値観の選択」
～生き方について考えよう～

- 人間関係形成能力
- 情報活用能力
- 将来設計能力
- 意志決定能力

人の生き方には様々な価値の選択肢があるとの理解に基づいて、社会との関わりを考え、将来への目的を抱いて、前向きに生きようとする意欲や態度を高める。

人それぞれに生き方があり、その価値観も多様であるということが理解できた。自分の人生を考える時の観点を整理することができた。
教師の意図する回答が多く、意見のぶつかり合いが少なかった。

◎生徒の感想を短学活で紹介し指導効果を高めるとともに、小集団活動におけるルールを決め、鍛え上げていくことが必要。



5 検証授業

- (1) 期日：7月11日（水）
- (2) 時間：5校時（14：10～15：00）
- (3) 場所：久松中学校音楽室
- (4) 題材名：「価値観の選択」 ～生き方について考えよう～
- (5) 題材設定の理由

①題材について

本題材は中学校指導要領特別活動の「A学級活動」の内容（3）の中でも「望ましい勤労観・職業観の形成」と「主体的な進路の選択と将来設計」に関わるものである。

今日の厳しい経済情勢や産業・経済及び雇用の構造的変化に伴って、いわゆるフリーターやニートといった若者の増加が社会的な問題となっている。一方で、ほんとうの「豊かさ」とは何か

が問われ、これまでの生き方のモデルが崩れかけていく中、様々な生き方のスタイルが生まれてきている。これらのことを踏まえて、近年学校教育においては、「キャリア教育」の重要性が指摘されている。ここでいうキャリア教育とは、生徒に、働くことの意義など望ましい勤労観・職業観を育むことを目的とした、「生き方」教育のことである。

中学生という発達段階においては、自分の将来の夢が漠然としたものから、少しずつ現実に近い存在となっていく時期である。また、自分の個性を生かしながら自分なりの生き方を選び、将来の生活を思い描く時期でもある。こういう時期に、生徒に望ましい価値観の形成を促し、将来、社会人、職業人として自立し、自らの意志と責任で自分の生き方を選択していくことができるよう指導援助することは大切だと考える。

そこで、本時では、2つの事例を示し、人生とはどういうものであるかを考えさせるとともに、生徒に「何を大切にしたいのか」、「何を大切にしたいのか」等、人生の価値の選択についても考えさせたい。

②生徒の実態

本学級は男子11名、女子10名の比較的在籍数の少ない学級ではあるが、一人一人は明るく快活で存在感があり、全体的ににぎやかな雰囲気のある学級である。男女間の仲も良く、係や当番活動も男女混成でそれぞれ自分に与えられた役割をしっかりと果たしている。話し合い活動においては活発に意見を出し合い盛り上げることができるが、グループの中での話し合いは、小学校以来ずっと一緒という親しみもあってか、言葉遣いにおいて少しマナーに欠ける部分も見られる。

中学校入学後の5月に進路指導に関わる生徒の実態調査(資料3に添付)を行い、多くの生徒が将来になりたい職業を漠然とはあるが決めてはいるものの、進学先や将来、性格や能力に関する悩みごとが多い。さらに、「長所が見つけられない」(11名)、「自信がない」(11名)、「自分が好き」(2名)といった実態が浮かび上がってきた。

そこで、キャリア教育との関連を図りながら、進路学習を進めていく上で根幹となる自己理解(自己を見つめ、特色を知る)をはじめ、キャリアカ・ウンセリング、望ましい職業観・勤労観を育むことを目的とした職業講話や身近な人からのメッセージ(インタビュー)を取り入れた学習等を実践してきた。また、今、社会が抱えている勤労意識や職業意識の希薄さに伴う「フリーター」や「ニート」の増加の問題等にも触れ、職業への関心を深めさせるとともに、いまこの時期にやりたいことを見つけることの大切さについても学習してきた。その結果、生徒は、少なからず、働くことや職業への興味・関心が高まり、人はただ収入を得るためにだけ働いているのではないことも理解できるようになってきている。

しかし、将来の生き方に関して、「将来どのような生き方をしたいか」の自由記述で、「健康で豊かな暮らし・人の役に立つ・自由で楽しい・健康・自分の時間を作る・夢を実現・贅沢な暮らし・仕事一生懸命・両親を楽にさせる等」と、答えていることから、人生における価値観や職業観の理解の深まりがないことが分かる。そこで、本時の活動を通して、自分の将来の生き方や進路を考える上でどのような社会参加の仕方があるのかを考えさせ、自分がどんな価値観を大切にしているのかについて気づかせるとともに、グループで意見を交換することにより、価値観の多様性について理解を深めさせたい。

④指導観

これからの時代を生きる生徒が、自分の将来を設計するためにも、「将来の生き方」や「人生」について考えていくことは、今後の人間形成において重要なことであると考えられる。

本時では、2つの事例を紹介し、人生とはどういうものであるかを考えさせるとともに、人生の価値の選択についても考えさせたい。グループでの話し合いや情報交換などに積極的に取り組ませることによって、人の生き方には様々な価値の選択肢があるとの理解に基づいて社会との関わりを考えることができるようになり、さらに、将来への目的を抱いて前向きに生きようとする意欲や態度を育てることができるように考える。

日常においては、生徒一人一人が、目標をしっかりと持ち、自分の特性や能力を生かして、生き生きと過ごすことができるような学校生活をデザインし、学習や学級の係り活動、生徒会・学

校行事など、何事にも意欲的に取り組んでいこうとする心構えや態度を養っていききたい。

(6) キャリア教育との関連

① キャリア発達課題(中学校段階)

「生き方や進路に関する現実的探索」

- ・ 将来の職業生活、社会生活の中での自己の価値観をどう生かし、どのような生き方をしているかを考える。

② キャリア発達に関わる領域・能力及び発達を促すために育成することが期待されている具体的な能力・態度

諸能力領域	諸能力	具体的な能力・態度
人間関係形成能力	自他の理解能力	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分は将来の生き方についてどんな考えをもっているのかをまとめることができる。 ・ 学級やグループの友達と自分の意見を交換することができる。
	コミュニケーション能力	
情報活用能力	情報収集・探索能力	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生き方や進路に関する情報を、様々な方法で調査、収集、整理し、活用する。 ・ 勤労の意義や働く人々の人生観を理解する。
	職業理解能力	
将来設計能力	役割把握・認識能力	<ul style="list-style-type: none"> ・ 様々な職業の社会的役割や意義を理解し、自己の生き方を考える。 ・ 将来の職業を思い描き、自分にふさわしい職業や仕事への関心を高め、その目標達成に向け、努力する。
	計画実行能力	
意志決定能力	選択能力	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自己の個性や興味・関心にもとづいて、よりよい選択をしようとする。 ・ よりよい生活や生き方等を目指して自ら課題を見出していくことの大切さを理解する。
	課題解決能力	

③ キャリア教育としての視点

ア キャリア発達のつながり(連続性)

○レディネス

職業講話や身近な働く人へのインタビューを通して、働くことや職業への興味・関心を高めてきた。人はただ収入を得るためにだけ働いているのではないことも理解できるようになってきている。

○発展

自分の生き方を考えさせ、進級しての題材、「働く目的・学ぶ目的」をじっくり考えさせ、「なぜ人は学ぶのだろう」「なぜ人は働くのだろう」(2年生)につなげていく。

イ 道徳・総合的な学習の時間との関連

次時に、自分で興味を持った人物についての調べ学習を通して、「生き方」を考える様々な視点について理解を深めていきたい。

ウ 家庭・地域社会との関連

社会で活躍している人の新聞記事やテレビ番組等から、人々の様々な生き方を取り上げ、家庭でも話題にする。

(7) 本時の指導

① ねらい

- ・ 人生とはどんなものかを、人の生き方を通して考え、自分の人生に関心を持たせる。

- ・人それぞれに生き方があり、生き方という価値観から、自分の将来の生き方を考える視点を整理させる。

②展開

段階	生徒の活動と内容	指導上の留意点	評価・【能力】
活動の開始 10分	<p>1 本時のねらいを理解する 「人生」という言葉から想像できることを考え、発表する。(一斉)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>本時の活動テーマ 「生き方について考えよう」</p> </div> <p>2 本時の活動内容について理解する ①活動の内容説明を聞く。 ②ウォーミングアップ 価値観の違いが人生の分かれ道になることがあります。次の質問について考えてみよう。 Q社長から「事業を10倍に拡大するので、単身赴任してリーダーになってほしい」といわれたが、家族と月に1度しか会えなくなる。あなたなら、どうする? (単身赴任する・その話はことわる) ③選んだ理由を発表する。</p>	<p>○様々な考えを肯定的に受け止めさせる。 ○「人生」の意味が分からない時は補足する。</p> <p>○活動の内容説明は簡単に済ませる。 ○ウォーミングアップで詳しく説明する。 ○価値観について少し説明してあげる。(価値の意味が分からない生徒へ助言する。)</p> <p>○意欲の見られない生徒は指名して発言を促す。</p>	<p>・テーマに関心を持ち、主体的にとりくもうとしている。 [関・意・態]</p>
活動の展開	<p>3 2つの事例(資料A)から人生について考える。(グループ) ○「かけっこにかけた人生」と「保育から介護へ新たな出発」を読み、感想を簡単にまとめる。</p> <p>4 事例から2人は「何を大切に生きてきたのか」を考える。 ①小出さんはなぜ、高橋さんの世界最高記録を実現させることができたかを考え、グループで意見交換をする。 ②山田さんはなぜ、今も働き続けているのかを考え、グループで意見交換をする。</p> <p>5 各グループから小出さん、山田さんについて、考えたことを発表する。</p> <p>6 人それぞれで生き方における価値観の違いがあることを理解する。 ①「自分の人生を考えるととき～」</p>	<p>○読んだ感想をまとめさせ各人の人生観を見つめる ○書けない生徒には、「どこに感動したか」考えさせる。</p> <p>○人それぞれに、生きていく上での価値観の違いがあることに気づかせたい</p> <p>○何をあきらめ、何を選んだのか。その気持ちはどうだったのかを視点として持たせる。</p> <p>○各グループで出された考えを発表できるように準備させておく。</p> <p>○価値の順序にこだわらな</p>	<p>・2人の人生について自分なりの考えを持つようとしている。 【計画実行能力】 [思・判]</p> <p>・2つの事例から価値の選択について考えることができる。 【認識能力】 [思・判]</p> <p>・メンバーのそれぞれに生き方における価値の違いがあること</p>

30分	(ワークシート)を記入し、グループのメンバーで選んだ価値を比べる。 ②各自の選んだ価値の違いから、人の生き方における価値観の違いを理解する。	いようにし、人によって違いがあることを認識させたい。	を理解できる。 【役割把握・認識能力】 [知・理]
活動のまとめ 10分	7 今日の活動を通して考えたことをまとめる。(一斉) 「私はこんなことを大切に生きていきたい」を記入する。 8 感想発表	○人にはそれぞれの生き甲斐があり、それを追い求めていきていることを押さえる。 ○まとめられない、記入できない生徒には、個別に指導をする。	・自分なりの将来の生き方を考え、まとめている。 【課題解決能力】 [技・表] [知・理]

(8) 評価

- ①人生とはどんなものかを、人の生き方を通して考え、自分の人生に関心を持つことができたか。(関心・意欲・態度)
- ②自分のこれからの人生について考えることができたか。(思考・判断)
- ③自分の人生を考える時の観点を整理することができる。(技能・表現)
- ④人それぞれに生き方があり、その価値観も多様であるということが分かる。(知識・理解)

(9) 事後の活動と指導

活動内容 (活動場面等)	指導・援助の留意点
・「あこがれる人の生き方調べ」 対象となる人物、調査方法を考えさせ、放課後や家庭で調査させる。 (発表会や体験へ)	・スポーツ選手や芸能人はインターネットや本で調査でき、地域の著名人は、本人に直接インタビューできるように準備する。

(10) 生徒の感想 (全員)

<ul style="list-style-type: none"> ・この授業で人生について関心を持つことが少しできた。 ・いろいろな人が、いろいろな人生を生きているということが分かった。 ・人それぞれ自分の生き方というものがあるんだなあと思った。 ・うまく話し合いができなかったけど、人それぞれ価値観も様々であるし、生き方も違うということを改めて考えることができた。 ・みんなの考え方や今まで自分が考えていた生き方も変わった。 ・「人生」や「将来の生き方」について考えていくことがとても楽しくなった。 ・将来の生き方や人生について考えることができてよかった。 ・人それぞれに生き方があり、その価値観も違うんだなあと思いました。 ・自分のためになりよかったですと思いました。 ・友達のいろいろな考えが分かった。 ・自分の人生を考える時、命を大切にしたいです。今日の活動は楽しかったです。 ・自分はお金よりも能力が必要だなということが分かった。 ・自分に素直に生きていきたいと思いました。 ・将来やさしい保育士になろうと覆いました。(絶対保育士になるとも思いました。) ・楽しかった (3人)

6 生徒の実態把握と変容を見るためのアンケート調査

- (1) 実施月日 平成19年5月・7月
 (2) 対象 宮古島市立久松中学校1学年B組(21人)

【進路について】

問1 あなたは、「進路」という言葉からどのようなことを考えますか。
 1つえらんでください。

(単位:人)

	5月	7月
ア 進学	13	8
イ 職業	7	8
ウ 生き方	1	5
エ その他	0	0

問2 あなたは、自分の将来について考えることがありますか。

(単位:人)

	5月	7月
ア よく	5	10
イ 時々	15	11
ウ ほとんど	1	0

問3 あなたは、将来なりたい職業がありますか。(今の時点で・・・)

(単位:人)

	5月	7月
ア ある	20	20
イ ない・わからない	1	1

<その職業を選んだ理由>

(単位:人)

5月		7月	
・料理をつくるのが楽しいから	2	・両親(祖母)の影響	4
・小さい頃からのあこがれ	2	・人の役に立ちたい	4
・人を喜ばせてあげたい	1	・子どもが好きだから	2
・プラモデルが好きだから	1	・主役の人物へのあこがれ	2
・金が儲かりそうだから	2	・スポーツが好きだから	4
・すごい仕事・すごいと思ったから	2	・楽しいから	2
・物を作るのが好き	1	・手の器用さを生かしたい	1
・病気をしている人を助けたい	2	・いい仕事だと思ったから。	2
・子供が好きだから	3	・物を作ることが好きだから。	2
・人に教えるのが楽しい	2	・自分の好きなことがしたいから	2
・人を支える仕事がしたい	1	・すごい先生との出会い	1
・スポーツが好き	2	・福祉関係の仕事(人を支える)がしたい	1
		・人に教えるのが好きだから	1
		・人を喜ばせたい	1

問4 あなたが、進路について、今学びたいことはどんなことですか。(3つ選択)

(単位:人)

	5月	7月
ア 自分の個性や適性	6	4
イ 上級学校の教育内容	12	3
ウ 職業の種類	11	14
エ 学ぶことや働くことの意義	4	6
オ 進路選択の考え方	4	9
カ 進路情報	8	7
キ 進路相談の仕方や内容	2	2
ク 将来の生き方や人生設計	4	10
ケ 上級学校の合格可能性	11	6
コ その他	1	1

問5 悩みごとや心配ごとについて、あてはまるものを選んでください。
(いくつでもよい) (単位:人)

	5月	7月
ア 打ち込めるものがない	1	2
イ 勉強の仕方	5	7
ウ 授業についていけない	4	5
エ 勉強と部活の両立	5	5
オ 自分の進学先や将来	11	10
カ 自分の性格や能力	6	6
キ 自分のからだや健康	5	4
ク 友達のことについて	0	3
ケ 家族のことについて	3	1
コ その他	1	0
サ 特にない	5	3

【自己理解・自己肯定感の面から】

問1 私は、今の自分に満足している

(単位:人)

	5月	7月
ア 大いに	2	1
イ 満足	7	10
ウ あまり	10	6
エ 少しも	2	4

問2 私には、長所がたくさんあると思う

(単位:人)

	5月	7月
ア 大いに	0	2
イ そう思う	5	8
ウ あまり	14	6
エ 少しも	2	5

問3 私には、人に自慢できることがあると思う

(単位:人)

	5月	7月
ア 大いに	2	1
イ そう思う	8	12
ウ あまり	9	2
エ 少しも	2	6

問4 私は、ほかの人のためになれる人間だと思う。

(単位:人)

	5月	7月
ア 大いに	2	1
イ そう思う	8	7
ウ あまり	8	8
エ 少しも	3	5

問5 自分に自信がある

(単位:人)

	5月	7月
ア 大いに	2	1
イ そう思う	8	7
ウ あまり	8	8
エ 少しも	3	5

問6 私は自分のことが好きだ

(単位:人)

	5月	7月
ア 大いに	1	0
イ そう思う	1	6
ウ あまり	10	7
エ 少しも	9	8

【働くことの意義について】

問1 あなたは、将来何のために働きたいと思いますか。

あなたが重視したい順に3つ選んでください。(単位:人)

	5月	7月
ア 地位や名誉を得るため	2	1
イ 遊んで過ごさないため	3	2
ウ 役立つため	9	11
エ 知識や社会の常識を得るため	6	3
オ 収入を得て生活するため	9	9
カ 豊かな日本にするため	1	2
キ やりたいことを実現するため	17	9
ク 老後を心配なく過ごすために	5	7
ケ 物を買ったり遊んだりするため	0	2
コ 社会を成立させるために	2	4
サ 働くことの意義を見つけるため	1	2
シ 他の人から喜んでもらうため	8	11

問2 あなたは将来どのような生き方をしたいですか。

(単位:人)

5月		7月	
・人の役に立つ人間になりたい	4	・人のために仕事ができるような生き方	3
・健康で豊かな生き方	4	・自分がやりたい仕事をして人の役に立つ	2
・自由で楽しい	3	・働いて(夢を叶えて)楽しく生きる。	2
・働いて、自分の時間も作って幸せ	2	・人の役に立ち、自分に自信がもてる	2
・問題のない普通の生き方	2	・自分の収入で生活して他の人の役に立つ	2
・夢を実現して、人を喜ばせる	1	・自分が満足できるような生き方	2
・仕事も一生懸命がんばる	1	・のんびりとマイペースで暮らしたい	2
・両親を楽にさせたい	1	・夢に向かって頑張る	1
・仕事をして幸せ	1	・苦勞もあるけど楽しく生きたい	1
・充実した	1	・金持ち	2
・頑張って生きる	1	・自由	1
・贅沢な暮らし	1		

研究のまとめ

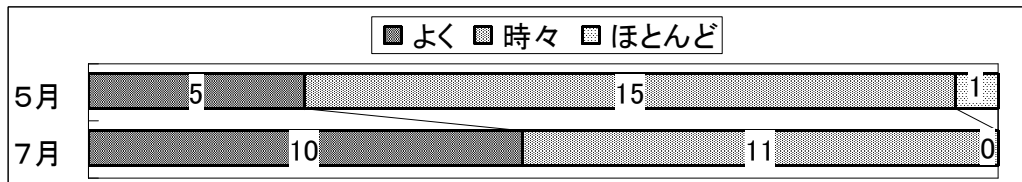
VIII 研究のまとめ

1 仮説の検証

ここでは、主に対象学級となった久松中学校1学年B組（男子11名、女子10名、計22名）に対して行った第1回進路アンケート（5月実施）と、第2回（7月実施）の結果を比較検討し、さらに検証授業後のアンケートや感想をもとに、前述した仮説の検証を試みる。

1-1. 本学級生徒の進路に対する一般的な捉え方の変容

問1◇あなたは、自分の進路・将来について考えることがありますか。（三択）



5月実施の第一回アンケートの結果に比較して、検証授業後の第二回アンケート結果（7月実施）では自分の進路・将来について「よく考える」生徒が増加していたことから、進路への関心。また、進路への思考が「将来」や「生き方」関わるものとして捉える傾向が高まったものと考えられる。

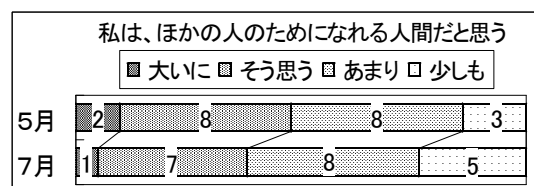
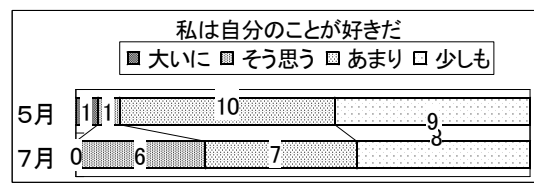
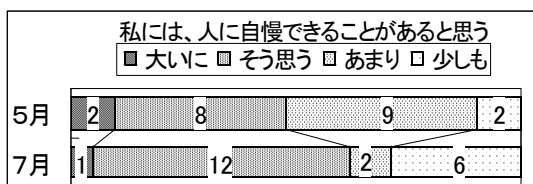
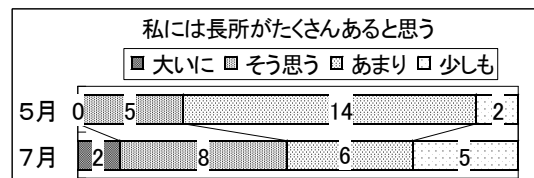
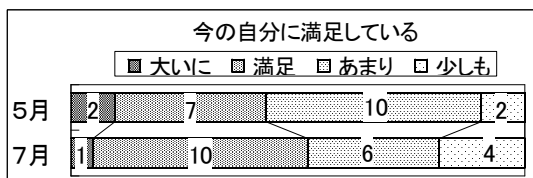
1-2. 自己理解と進路への関心（仮説1の検証）

ここでは仮説1の検証に関わる結果と考察を述べる。仮説1は以下の通りである。

【仮説1】：キャリア教育において、自己理解を深めさせる工夫をすることにより、将来いかに生きるかの視点に立って、進路への関心を高めることができるであろう。

1-2-1. 自己理解は深まったか

※グラフ内の数字は人数（人）



自己理解の深まりについては、検証授業を行った後では「自分に満足している」「自分に長所がたくさんある」「自慢できることがある」という生徒が増加した。また、検証授業（第1次）後に

さらに自己理解を深めることを目的として、仲の良い友達同士によるグループカウンセリング-自己探求のための『自己診断ゲーム』-を行ったところ、13名の生徒が自分の特徴や自慢できることとして、「能力や過去の経験、夢」を記述した。さらに、検証授業（第1次）のアンケートでは、「自分自身のことをもっと知りたい」という生徒が16人いた。このことから、生徒の自己理解は深まり、自己理解への意欲も高まってきたと考えられる。

一方でそれぞれの項目で「少しも思わない」という生徒も増加していた。また「他の人のためになれる」「自分に自信がある」と答える生徒が減少しており、自己理解の仕方が生徒個人内の意識と関わっていることを示唆している。さらに実態調査（7月実施：問5、悩みごとや心配ごと）では、ほとんどの生徒（18名）が自分自身のことで何らかの不安を抱えていることが示された。このことから、この時期における生徒は、自己の可能性を発揮しようとする努力と共に、様々な課題にも直面している可能性が考えられる。

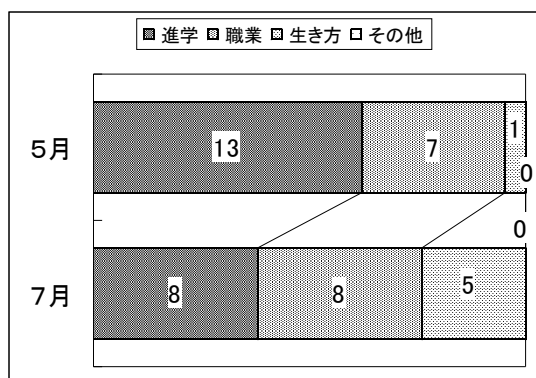
この時期の生徒の発達には青年期特有の発達課題が大きく関わっている。青年期は人間の発達段階のうで児童期と成人期の間に位置する、いわば子どもから大人への移行の時期である。この時期には、自己への関心が高まり、場合によっては、自分の短所に注目するあまり、自信が持たず、自分に不満を覚え否定する傾向も現れるのではないだろうか。

このような自己理解を深めていく上での「葛藤」は生徒個人のアイデンティティの萌芽をしめすものとして捉えられる。エリクソンによると、「青年期においては、自己を正しく理解し、自己のなかに存在する多くのアイデンティティを統合することが課題」とされる。（氏原寛他編『心理臨床大事典(改訂版)』2004による）。

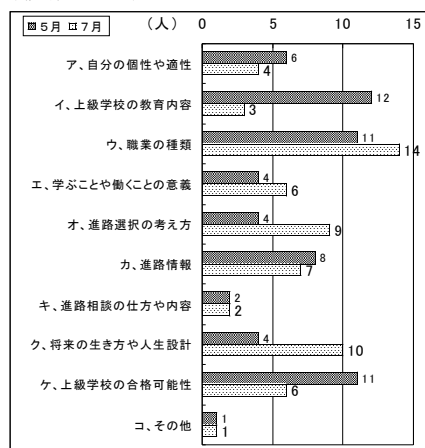
したがって生徒は、このような葛藤による揺れを繰り返しながら、自分の内面を豊かにしていくための整理をしていると理解できよう。今後は、この揺れに対しても肯定的にとらえながら、自己肯定感を維持するための定期的なキャリアカ・ウンセリングや学級活動の展開を工夫する必要がある。

1-2-2. 将来いかに生きるかの視点に立って進路への関心は高まったか

問1 ◇ 「進路」という言葉からどのようなことを考えますか。



問2 ◇ 「進路」について学びたいこと（複数選択）



問3 ◇ 「自分のこれからの人生について関心を持つことができたか。」

検証授業5 振り返りシートから（回答者19名、欠席2名）

関心を持った。	9名
やや関心を持つことができた。	10名
あまり関心が持てなかった。	0名
関心を持つことができない。	0名

問4 ◇ 「自分の人生を考えるとときどんなことを大切にしたいのか考えを整理できたか。」

検証授業5 振り返りシートから（回答者19名、欠席2名）

考えを整理できた	10名
だいたい整理できた	9名
あまり整理できなかった	0名
できなかった	0名

検証授業を行った結果、進路について「進学」と捉える生徒は減少し、「将来の職業」「人とし

での生き方」と捉える生徒が増加した。また、進路について「職業の種類」「将来の生き方や人生設計」に関わる回答が増加したことから、「進路」を卒業時の学校選択よりも、生き方を意識した選択として捉えていこうとする傾向が高まったと考えられる。さらに「自分の人生に関心を持つことができた」「人生を考える時の価値観について整理できた」とする生徒も増加した。これらのことから、授業実践を通して、進路を単なる進学ではなく「将来いかに生きるかの視点」で捉えることができるようになってきたと考えられる。

以上のことから、キャリア教育において、自己理解を深めさせる工夫をすることにより、将来いかに生きるかの視点に立って、進路への関心を高めることができたと考えられる。

1-3. 職業への関心、適切な進路選択（仮説2の検証）

ここでは仮説2の検証に関わる結果と考察を述べる。仮説2は以下の通りである。

【仮説2】：体験学習において、多様な生き方にふれさせることにより、自分にふさわしい職業や仕事への関心・意欲が高まり、適切な進路を選択していこうとする能力が育つであろう。

1-3-1. 職業への関心・意欲の高まり

問1◇「将来なりたい職業はありますか。」（回答者21名）

	5月	7月
ア. ある	20名	20名
イ. ない・わからない	1名	1名

問2◇「職業人による講話を聞いて働くことへの関心が高まったか」（回答者18名、欠席3名）

とても深まった	11名
だいたい深まった	8名
あまり深まらなかった	0名
全く深まらなかった	0名

問3◇「仕事や学級における係活動や当番活動に対する積極的な気持ちを持つことができたか。」（働くことの尊さ：道徳）（VTR：身近な大人の仕事についての考え）の振り返りシートから

（回答者17名、欠席4名）

その通り	11名
ややその通り	6名
あまりその通りではない	0名
その通りではない	0名

問4◇「生徒の声」（働くことの尊さ：道徳）（VTR：身近な大人の仕事についての考え）の振り返りシートから

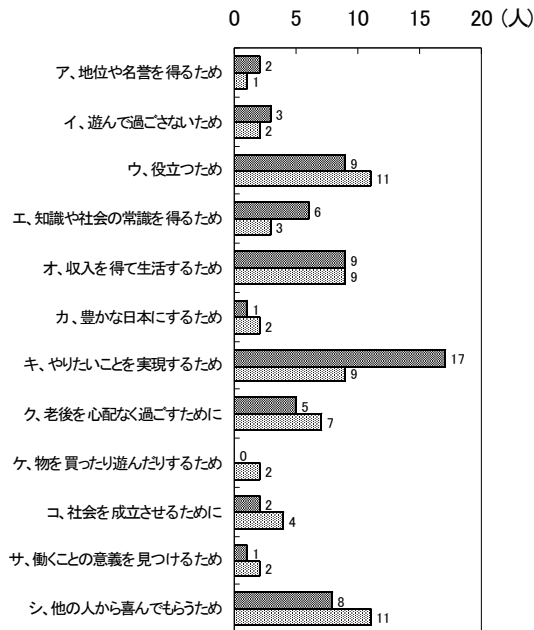
・働くことに興味が出てきた。(Nさん・Yさん)	・夢を叶えられそうな気がする(Yさん)。
・働くことの大切さ・尊さが分かった。(駒5名)	・夢を夢で終わらせたくない。(Y君, K君, Aさん)

「職業探し」、「働くことの尊さ」の授業や「職業講話」「身近な職業人によるインタビューメッセージ」で学んだことにより、生徒は働くことの意義について学んだり、職業人や社会人としての心構えや生き甲斐、誇りを持って働く姿を知ることができ、働く事への関心・意欲が高まったと考えられる。

1-3-2. 適切な進路選択をしていこうとする能力

問1 ◇将来何の為に働きたいか（3つ選択）（働くことの意義）

（5月と7月の比較：回答者21名）



※ 重視したい順3つ

1位にあがった項目3つ	
5月	キ やりたいことを実現するため (9名)
	ウ 社会や他の人の役に立つため (5名)
	オ 収入を得て生活するため (2名)
7月	ウ 社会や他の人に役に立つため (8名)
	オ 収入を得て生活するため (5名)
	カ 豊かな日本にするため (2名)

◇検証授業(道徳) 振り返りシートから

- ・私も大人になったら渡辺さんのように人の役に立ちたいです。(Aさん)
- ・私もこんなすごいことをしてみたい(N)
- ・私も、保育士に絶対なろうという気持ちがつよくなりました。(A)

問2 ◇将来どのような働き方をしたいのか選択する上で大人達のメッセージは役に立ったか

(職業講話)及び(働くことの尊さ:道徳)(VTR:身近な大人の仕事についての考え)を終えての振り返りシートから

その通り	15名
ややその通り	6名
あまりその通りではない	0名
その通りではない	0名

(回答者21名)

問3 ◇職業を選択した理由(アンケートより:記述)

※自由記述(複数記述あり)

	5月	7月
個性	・料理をつくるのが楽しいから 2	・両親や祖母、親戚の影響 4
自分の個性(適性・性格・特技)が生かせる	・子供が好きだから 3	・子どもが好きだから 2
	・物を作ることが好き 1	・スポーツが好きだから 4
	・プラモデルが好きだから 1	・すごい先生との出会い 1
	・スポーツが好き(野球・サッカー) 2	・自分の好きなことがしたいから 2
		・手の器用さを生かしたい 1
	・物を作ることが好きだから。 2	・人に教えるのが好きだから 1
社会奉仕	・人を支える仕事がしたい 1	・人の役に立ちたい 4
社会や人のためにとても役立つこと	・病気をしている人を助けたい 2	・福祉関係の仕事(支える)がしたい 1
	・人を喜ばせてあげたい 1	・人を喜ばせたい 1
仕事への憧れ	・すごい仕事・すごいと思ったから 2	・主役の人物へのあこがれ 2
	・小さい頃からのあこがれ 2	・楽しいから 2
	・人に教えるのが楽しい 2	・いい仕事だと思ったから。 2
経済	・金が儲かりそうだから 2	
高い収入や給料を得ることができること		

「何のため働きたいか」については、「収入を得ること」や「やりたいことを実現する」とい

う選択から、「社会や他の人の役に立つ」を選択した生徒が増加していた。ここで、「社会成立」や「豊かな日本」を選択していた点に特に着目したい。すなわち生徒は、働く事への関心の高まりとともに、発達段階に応じた勤労観や職業観を育むことで、社会人としてあるべき姿を一つの理想として捉え、その実現を求めて自己を高めようとするようになってきたと考えられる。同様の意味合いで興味深い点は、働くことの意義について「やりたいことを実現するため」が17名から9名に極端に減少した点である。このことは、生徒が職業を「やりたいこと」という抽象的思考で捉えていたところから、より具体的な「何をどんなふうに」という思考で捉えていこうという姿勢が強まったものと考えられる。

問4◇将来どのような生き方をしたいか（自由記述）

	5月	7月
社会・人の役に立つ (社会成立)	<ul style="list-style-type: none"> ・人の役に立つ人間になりたい 4 ・夢を実現して、人を喜ばせる 1 	<ul style="list-style-type: none"> ・人のために仕事ができるような生き方 3 ・自分がやりたい仕事をして人の役に立つ 2 ・人の役に立ち、自分に自信がもてる 2
個性を生かす		<ul style="list-style-type: none"> ・働いて（夢を叶えて）楽しく生きる。 2 ・夢に向かってがんばる 1
収入・安定	<ul style="list-style-type: none"> ・問題のない普通の生き方 2 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が満足できるような生き方 2 ・のんびりとマイペースで暮らしたい 2 ・自分の収入で生活して他の人の役に立つ 2
健康・充実	<ul style="list-style-type: none"> ・両親を楽にさせたい 1 ・仕事をして幸せ 1 ・健康で豊かな生き方 4 ・充実した 1 ・仕事も一生懸命がんばる 1 ・がんばって生きる 1 	<ul style="list-style-type: none"> ・苦労もあるけど楽しく生きたい 1
贅沢・自由	<ul style="list-style-type: none"> ・贅沢な暮らし 1 ・働いて、自分の時間も作って幸せ 2 ・自由で楽しい 3 	<ul style="list-style-type: none"> ・金持ち 2 ・自由 1

問5◇検証授業（生き方の価値選択）振り返りシートから

・僕も小出さんのように自分の能力を最大限に生かせる仕事をして生きていきたい
(K君, S君, Aさん, Nさん)

・山田さんのように社会から必要とされるような、認められる仕事をして生きていきたい。
(Tさん, Mさん, O君, T君,)

将来の生き方に関して、検証授業前の5月は、「健康で豊かな暮らし」「人の役に立つ」「自由で楽しい」「健康」「自分の時間を作る」「夢を実現」「贅沢な暮らし」「仕事一生懸命」「両親を楽にさせる」と記述し、人生における価値観や職業観の理解の深まりがなかったが、実践後の7月には「人のために・・・」「人の役に立つ・・・」「自分に満足して・・・」等、将来の職業を生き方と照らして記述したものが見られた。実践授業における職業人の生き方から、人生とはどういうものであるかを考えたり、人生の価値の選択について学習したりすることにより、自分の人生に関心をもつようになったと考えられる。また、一步踏み込んだ学習、例えば、今後計画している「人の生き方についての調べ学習」や「将来設計」、「進路計画」を実践していくことにより、生徒は自分の人生を積極的に考えていこうとする態度が養われていくものと考えられる。

以上のことから、体験学習において、多様な生き方にふれさせることにより、自分にふさわしい職業や仕事への関心・意欲が高まり、適切な進路を選択していこうとする能力が育ったものと考えられる。

2 成果と課題

自己理解と進路への関心については、単発ではあるが、エンカウンターによる授業実践やグループカウンセリングを通して、生徒が互いに理解し認め合い、高め合うという人間関係の中から、自己発見、自己理解、他者理解を進めることができた。それによって、生徒は他人との関わりの中で自分がどう思われているかを知り、今まで自分が気がつかなかった性格や能力を知ることができるようになり、自分の将来や職業、生き方についてより考えるようになった。

職業への関心、適切な進路選択については、多様な生き方にふれることにより、生徒は、職業理解や、働くことの意義や自分と社会との関わりについて気づくことができ、働く事への関心・意欲が高まった。また、自分の興味・関心に基づいたよりよい生き方を選択していこうとする態度が育ってきた。

本研究を行った結果明らかとなった課題としては、以下の4点を挙げるができる。これらの点については、今後の教育活動の中で常に考慮を払いながら実践を通して解決していきたい。

- (1) 自己効力感を高める為のキャリア・カウンセリングの充実。
- (2) 社会生活や職業生活によりよく適応させるための体験学習の工夫改善。
- (3) 教科・領域と関連づけたキャリア教育の実践。
- (4) 効果的なキャリア教育を展開していくための、家庭・地域との連携。

3 おわりに

本研究ではキャリア教育を「生徒が人生における役割や職業についての知識や技能を理解するとともに、将来の生き方を考え、主体的に進路を選択していくことができるよう支援する教育」いわゆる「生き方教育」として捉えようとした。

キャリア教育を「生き方教育」として捉えようとした場合、青年期の発達課題を無視するわけにはいかない。前述したように青年期は、人間の発達段階のうえで児童期と成人期の間に位置する、いわば子どもから大人への移行の時期である。青年期は「第二の誕生」の時期といわれる。これは、ルソーの『エミール』中の「私たちは、いわば、二度生まれる。一度めは存在するために、二度めは生きるために。一度めは人間に生まれ、二度めは男性か女性に生まれる。…(省略)これが私の言う第二の誕生である」という箇所由来している。(吉澤昇・為本六花治・堀尾輝久著「ルソー エミール入門」1978による)。

この時期には、心身両面での発達が加速され、自我や性の目覚め等によって自己の内面への関心が増大する時期である。その一方で、自我の発達はなお未熟な面もあり、些細なことで自信を失ったり、自己嫌悪に陥ったりするなど感情の起伏が激しくなるのもひとつの特徴である。また、学習上の悩みや進路の選択においても、これまで経験したことのない不安や悩みにも直面することが多い。こうした不安や悩みは、時には反社会的行動や自暴自棄な行為などに結びつく危険性すらある。

以上のことから、キャリア教育を行う際、中学校においては、特に青年期（前期）の発達課題や特徴を視野に入れて実践していくことは極めて重要である。そのことを通じて生徒自身が主体的に自分と向き合い、不安や悩みに気づき解決を目指していく姿勢を支援していくことが求められる。また、その先に、夢や希望を抱いて「逞しく生きていく」姿勢や行動力を高めていくことが望まれる。

資料

学級活動指導案

平成19年 5月18日(金) 4校時
宮古島市立久松中学校1年B組(21名)
指導者 嘉手苺美智恵
1年B組担任 下里博枝

1 題材名 「私は誰でしょう？」

グループエンカウンターによる自己理解・他者理解

2 題材設定の理由

(1) 題材について

本題材は中学校指導要領特別活動の「A学級活動」の内容(2)アの中でも「自己および他者の個性の理解と尊重」に関わるものである。ここではグループエンカウンターを通して、自己理解を深め、他者の多様な個性を理解し尊重する態度の育成を目指すものである。

自己理解は、「キャリア教育」で育む4つの能力の基盤となる基本的能力として考えられ、人間関係形成の育成には必要不可欠な具体的能力として位置づけられている。

グループエンカウンターによる自己理解・他者理解は、生徒一人一人の多様な個性を、生徒集団の中で深化させ、よりよい人間関係に気づかせるものである。自己理解・他者理解の観点から自己発見や自分を知る過程を体験していく活動として、グループエンカウンターは有効だと考える。また、グループエンカウンターエクササイズ(演習)には、生徒の生き生きとした体験を伴う情動的な場面が繰り返されるものが多く、この過程により、生徒の自己発見、自己理解は深化しパーソナリティの発達につながっていくと考える。

(2) 生徒の実態

本学級は男子11名、女子10名で構成され、穏やかな生徒が多く和やかな雰囲気である。入学して2ヶ月が過ぎ、生徒は学校生活にもだいぶ慣れ、学習や諸活動にまじめに取り組んでいる。

この時期は、身体の著しい成長と進路への関心が芽生える一方で、友達関係や学習面での悩みや不安を抱き始める。また、自分自身を客観的・総合的に捉えきれないため、自分の長所や短所等がよくわからない時期でもある。本学級のアンケート結果でも、「悩みごとや心配ごとがある」(16名)、中でも学習面、進学先や将来、性格や能力に関する項目の多いことがわかった。さらに、自己理解・自己肯定感に関わるものとして、「長所が見つけれない」(11名)、「自信がない」(11名)、「自分が好き」(2名)といった、肯定的な自己理解が低いことも実態として浮かび上がってきた。

このような実態から、自己理解の深化と肯定感の高揚を目的とした授業を展開していくことが重要だと捉える。そこで、本時ではグループエンカウンターの実践により、他者との肯定的な関わり(他者の長所を捉え、伝える活動)を通して温かい人間関係をつくる。また、自分の長所に気づき、それを積極的に受け止め、さらに伸ばしていこうとする態度を育むことで、これからのキャリア学習の基盤としたい。

(3) 研究との関連

①研究テーマ

将来の生き方を考え、主体的に進路を選択する能力の育成
～中学校におけるキャリア教育を通して(1学年)～

②研究仮説

- ア キャリア教育において、自己理解を深めさせる工夫をすることにより、将来いかに生きるかの視点に立って、進路への関心を高めることができるであろう。
- イ 体験学習において、多様な生き方に触れさせることにより、自分にふさわしい職業や仕事への関心が高まり、適切な進路を選択していこうとする能力が育つであろう。

③指導計画

- ア 5月18日(金) 学級活動 **「私は誰でしょう？」**
【本時】 グループエンカウンターによる自己理解・他者理解
- イ 6月1日(金) 学級活動 「職業や産業について調べよう」
- ウ 6月6日(水)～6月8日(金) キャリアカウンセリング
- エ 6月19日(火) 総合的な学習の時間 「職業講話」
- オ 6月29日(金) 道徳 「自分らしさを見つめ直そう」
- カ 7月11日(水) 学級活動 「価値観の選択」

(4)指導観

進路学習を進めていく上での根幹となる自己理解の活動に取り組むことで、今後の学習への意欲の向上を図るとともに、他者理解、自己開示の要素も含めた幅の広い展開ができると考える。

本時で取り扱う扱うエクササイズは、「自分の秘密」カードに将来の夢、宝物、自分のエピソードなどを簡単に記入し、教師がその内容を匿名で発表し、生徒たちが誰の「秘密」かを当てる活動である。自己理解とともに、仲間を認める肯定的理解の雰囲気づくりの場として展開したい。楽しく取り組むレクリエーションでありながら、内容は「個に始まり」「個にかえる」、キャリア教育の根幹となる内容で進路学習への意欲づけとしたい。

3 本時の指導

- (1) ねらい 動きのあるエンカウンターを通して、楽しい雰囲気の中で進路学習に前向きに取り組むこと意欲付けをするとともに、自己理解の深化と他者理解による人間関係の向上を図る。

(2) 展開

段階	生徒の活動と内容	教師の支援	指導上の留意点
導入 課題 に 気 づ く 5分	1 本時のねらいを理解する 自分を振り返り、人の個性や特徴について考えてみよう。	活動意欲が高まるようアンケートについての補足説明をしながら本時のねらいを理解させる。 (課題の意識化と共通化)	・一斉 アンケート結果 評価：【関心・意欲・態度】
展開	2 本時の活動内容について理解する		

<p>エクササイズ の理解</p>	<p>○エクササイズの内容説明を聞く。</p> <p>○ウォーミングアップ 教師が発表する秘密の内容をヒントにして、その人が誰が考え当てる。</p>	<p>○エクササイズの内容説明は簡単に済ませる。</p> <p>○ウォーミングアップで詳しく説明する。</p> <p>○生徒の身近のキャラクターを活用する。(2問程度)</p>	<p>・一斉</p> <p>例文</p> <p>意欲的に参加しているか 【関心・意欲・態度】観察</p>
<p>エクササイズ の展開</p>	<p>3 「自分の秘密」カードの記入</p> <p>○観点を確認する～記入する 第1ヒント:将来・夢 第2ヒント:過去の出来事, 趣味・特技・大切なもの・タレント等</p> <p>4 カードの回収</p> <p>5 ヒントの人物の予想</p> <p>○教師が読みあげるヒントの人を答える</p>	<p>○観点を確認させる</p> <p>○自己開示に配慮する。</p> <p>○正解したあとに,何かコメントがあったら発言させる。</p>	<p>・個別</p> <p>ワークシート</p> <p>・一斉 ～発表～ 他者理解が深化したか【思考】 発表</p>
<p>活動の内面化</p> <p>35分</p>	<p>6 活動のまとめ</p> <p>○みんなのヒントや特徴を聞いて,感じたことをまとめる (もう一度自分の特徴について考える)</p>	<p>○感想を簡単に書かせる。</p> <p>○みんなのヒントを聞いて自分の特徴についていま一度考えさせる。</p>	<p>・個別</p> <p>ワークシート</p> <p>～感想～ 自己理解が深化したか【思考】 感想</p>
<p>まとめ</p> <p>活動の共有化</p> <p>10分</p>	<p>7 活動の振り返り (シェアリング)</p> <p>○今日のエクササイズについて,面白かったこと,感じたこと,気づいたことなどを話し合い,記入する。</p> <p>8 感想発表</p> <p>○振り返りや今日の授業の感想などを発表する</p>	<p>○ひと言でよいので,簡単に感想を述べさせる。</p>	<p>・一斉</p> <p>～発表～</p> <p>進路学習に対する姿勢【関心意欲】</p> <p>・・発表</p>

4 評価の観点

- (1) 自己理解・他者理解が深まったか。【思考・判断】
- (2) 自分を振り返ったり, 友達の特徴を知ることにより進路学習への意欲が高まったか。
【関心・意欲】

5 資料

(資料1)「自分の秘密」カード

私は誰でしょう？

組 番 氏名 _____

第1ヒント 私は将来,
_____ になりたいと思っています。

第2ヒント 私は, _____

第3ヒント 私は, _____

※あなたが書けるヒントだけ書いてくださいね。
この段階では、人に伝えたいこと、書きたいことを中心に開示させていく。
第1ヒントが書けなければ、書かなくてもよい。(個別の配慮を)

第1ヒント : 「将来の夢(職業, 進路)」という観点での設問。

進路学習への動機づけという意味から、みんなそれぞれの夢をもっているのだということを意識させたい。

第2・3ヒント : 自分のことを思い起こさせ、自由な観点で書かせる。

趣味, 特技, 宝物, 好きなタレント, 過去のエピソード, 自分の自慢など。

(資料2) ワークシート

みんなの特徴どうだった？

みんなのヒントや特徴を聞いて、感じたことをまとめてみよう。
(自分の特徴についてもう一度考えてみるのもいいね)

なまえ _____

※参考文献

「中学生の進路力を育てる総合的な生き方の学習プラン」(実業之日本社)

振り返りシート 1

組 氏名

「私は誰でしょう？」

- 1 今日の授業（活動）を振り返っての感想を教えてください。
（自分の気持ちに一番近いものの数字を○で囲んでください。）

①この活動は楽しかった。

その通り	ややその通り	あまりその通りではない	その通りではない
4	3	2	1

②この活動を通して、みんなの特徴がわかった。

その通り	ややその通り	あまりその通りではない	その通りではない
4	3	2	1

③この活動を通して、自分自身についてもっと知りたいと思った。

その通り	ややその通り	あまりその通りではない	その通りではない
4	3	2	1

- 2 今日の授業（活動）全体を振り返って感じたことや思ったことを自由に書いてください。



明日もきっと新しい自分に出会えるといいね。



1 学年職業講話実施計画

宮古島市立久松中学校

1. ねらい

- (1) 社会の各分野で活躍している方を招き、お話を聞くことによってその職業への理解を深め、勤労への関心を高める。
- (2) その人の仕事に向かう姿勢や生き方にふれることにより、仕事の苦勞や喜び・生きがいを知り、またその仕事が社会とどのように関わっているのかを理解する。

2. 期日及び対象者

平成19年6月19日 (火) 5・6校時(総合的な学習の時間)
1学年対象

3. 場所 久松中学校音楽室

4. 実施方法

(1) 講話の所要時間 ----- 一人30分程度とする

(2) 講話の主な内容

- ①仕事の内容を紹介する(講師独自の方法で伝える。)
- ②なぜこの職業を選んだのか。(経緯、理由等)
- ③中学時代、どんなことを思い、考え、またどんな夢や希望を抱いていたのか。
- ④特に中学時代からしておきたかったこと。
- ⑤この仕事に就くために努力したこと。この仕事に必要な資格や資質(性格、能力、その他)。
- ⑥この仕事をしてきて良かったと思うこと、喜び、厳しさ、気を遣っている点等。
- ⑦仕事に向かう姿勢や生き方など。
- ⑧人生の先輩として職場や社会の様子など。
- ⑨その他

(3) 活動の展開

進行：学年主任 (友利)

- | | |
|---------|-------|
| ①開会のことば | (司会) |
| ②講師の紹介 | (嘉手苺) |
| ③講話 | |
| ④質疑・応答 | |
| ⑤お礼のことば | |
| ⑥閉会のことば | |

5. 講師

宮古テレビ株式会社 代表取締役社長 藤村明憲 氏
宮古島東急リゾート 総料理長 宮元治雄 氏

6. その他

- 会場設営 ----- 1学年所属
- 表示 ----- 嘉手苺
- お礼のことば(生徒) ----- 学級担任
- ワークシート ----- 嘉手苺
- 事前・事後指導 ----- 学級担任

キャリア・カウンセリング実施計画

～グループカウンセリング～

2007年6月5日(火)
教育研究所 嘉手苺

学校におけるキャリア・カウンセリングとは

子どもたち一人一人の生き方や進路、教科・科目等の選択に関する悩みやまよいなどを受け止め、自己の可能性や適性についての自覚を深めさせたり、適切な情報を提供したりしながら、子どもたちが、自らの意志と責任で進路を選択することができるようにするための、個別またはグループ別に行う指導援助である。

文部科学省『キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議報告書～児童生徒一人一人の勤労観、職業観を育てるために』平成16年

① ねらい

○グループでキャリア・カウセリングを行うことにより、自他理解を深め、人間関係を円滑にしていくとともに、充実した中学校生活を送れるようにする。

② 方法と留意点

生徒 ○仲間同士で小学校時代の（またはこれまでの）学習を振り返り、中学校の学習や生活への決意を促していく。

○教師と仲間同士でワークシートを交換し合い、自他理解へのきっかけをつくる。

教師 ○相談後に生徒が満足感・充実感を得られるように、発達段階や個々の生活状況を考慮しながら丁寧な対応を心がける。

○解決のための資料や情報、助言を与え、自己解決ができるように導きながら、生徒が求めているものは何か、解決したいことは何かなどを明らかにし、共感的理解をしていく

3 期間 2007年6月5日（水）～6月7日（金）

4 時間・場所

給食後 午後1時30分～2時 （音楽室）

5 その他

○グループ編成は担任と相談して決定する。

○相談終了後は、記録をとり、次回の相談活動につなげる。

○個人資料（生徒の悩み：5月実施）を参考にする。

○生徒に感想を書かせ、今後の相談に生かす。

自己探求

(自己探求とは自分の真の姿を探り明らかにしていくことだよ。)

自分自身のことについて、お友達と一緒に楽しみながら考えてみましょう。
まず、小学校時代のことを振り返ります。次の質問に答えてください。

- ①あなたの出身小学校は？ _____
- ②小学校時代、得意だった教科は？ _____
- ③小学校時代、苦手だった教科は？ _____
- ④小学校時代にやったことで、これは自慢できるということは？

- ⑤小学校時代にこんな失敗をしてしまった・・・

- ⑥あなたの必殺技（特技・趣味など）を教えてください。

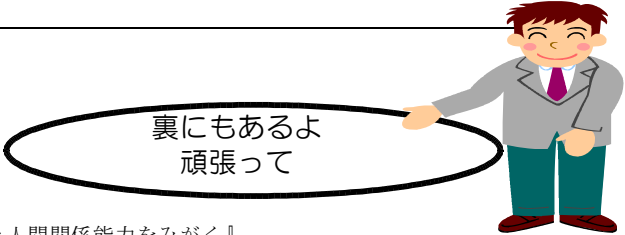
- ⑦1日に家でテレビをどれくらい見る？ _____ 時間 分
- ⑧土曜日のお休みは何をしたい？

- ⑨小学校6年生のとき、1日どれくらい家で勉強した？(塾もふくめて)
_____ 時間 分
- ⑩小学校6年のとき、1日にどんなお手伝いをした？(書けるだけでいい)

- ⑪あなたは何のために勉強するの・・・？ (下の2つに○をつけてください。)
A:勉強すること自体がすきだから B:学んだことを社会のためにいかしたいから
C:友だちよりもよい成績をとりたいたから D:中学生は勉強するものだと思うから
E:家族などが勉強したほうがいとすすめるから
F:自分の才能や特技を伸ばしたいから G:希望する職場に必要な力をつけたいから
H:希望する上級学校に進む力をつけたいから I:その他 _____
- ⑫あなたは中学校でどんな勉強をしたい？

- ⑬あなたが今一番ほしいものは？

- ⑭あなたの将来の夢は？



※ 堀川博基『職場体験プラスαの生き方学習～進路意識と人間関係能力をみがく』
実業之日本社2004 (p 63)

自己性格判断テスト

名前 _____

(あなたの性格は・・・?)

下の質問に対し、自分に合っているものに○をつけてください。
上のテストで○をつけた番号をぬりつぶしてみましょう。

- | | |
|-----------------------|--------------------------|
| 1 目立たなくても人のためにつくす | 26 人を楽しませるような話し方をする |
| 2 長い時間字を書いているても苦にならない | 27 お金は予算を立てて計画的に使う |
| 3 部活動の世話役を引き受ける | 28 動物や植物の世話をする |
| 4 部屋の飾り付けを自分で工夫する | 29 いろいろなものをくふうしながら作る |
| 5 自分の考えや気持ちを自由に表現したい | 30 薬品や道具を使って実験する |
| 6 自分の考えなどを文章に書き表す | 31 けがや病気の友だちの世話をする |
| 7 お金の使い方がうまいと人にいわれる | 32 きちようめんにきちんと仕事をする |
| 8 室内よりも戸外で仕事をしたい | 33 グループのまとまりに気をくばる |
| 9 機械を分解して、その仕組みを調べる | 34 ノートの表紙などをきれいにかざる |
| 10 人との交際より自分の仕事に熱中する | 35 すぐれた書物を読み、空想にふける |
| 11 子どものめんどうをよくみる | 36 いろいろな人とメールや文通をする |
| 12 やらねばならぬ仕事はがまん強くやる | 37 同じ品物なら少しでも安いものを買う |
| 13 相談を持ちかけられたらよく協力する | 38 こまかい気を使う仕事は性に合わない |
| 14 身の回りをきちんと整理する | 39 故障した電気器具などを修理する |
| 15 音楽や絵画で人を感動させたい | 40 ものごとをすじ道をたてて考え続ける |
| 16 話し合いの司会や会議のまとめをする | 41 困っている人のめんどうをよくみる |
| 17 買い物はまず値段を考えて選ぶ | 42 図書を整理してカードをつくる |
| 18 手先よりも体を動かして仕事をする | 43 グループでの話し合いでは進んで発言する |
| 19 おもちゃや自動車などの設計をする | 44 空調の効いた部屋で仕事をする |
| 20 雑誌や新聞などを切りぬいて整理する | 45 すばらしい音楽を聞いて陶醉(とうはい)する |
| 21 体の不自由な人や病人の世話をする | 46 手あたりしだいに多くの本を読む |
| 22 ノートや小づかい帳はきれいに書く | 47 つらくても、よりもうかる仕事をする |
| 23 転校生や新入生のめんどうをみる | 48 汗を流しながら自然のなかで働く |
| 24 ものごとをていねいに根気よくやる | 49 本立てなどを設計して自分で作る |
| 25 気がねせずに自分の個性を表したい | 50 ひとつのことを調べてまとめあげる |

たくさんつぶしたところがあなたの性格?を表したものになります。

記号	番 号					あなたの性格は・・・?	
あ	1	11	21	31	41	あ	あなたは誰に対しても優しくできる、ボランティア精神旺盛な人です
い	2	12	22	32	42	い	きちようめんで、物事を確実にやりとげられる人。がまん強い人です
う	3	13	23	33	43	う	誰とでも上手に話すことができる、にぎやかで明るく、楽しい人です
え	4	14	24	34	44	え	想像力豊かに新しいものを作ったり、生活を工夫したりできる人です
お	5	15	25	35	45	お	自分の気持ちを豊かに表現できる人です。自分の世界を持っています
か	6	16	26	36	46	か	視野が広く、立場を考えながら話すことができる、頭の切れる人です
き	7	17	27	37	47	き	数字につよく、何事にも頭が早く回転し、やりくり能力のある人です
く	8	18	28	38	48	く	動物や自然が大好きで、いのちを大切にする、心のあたたかい人です
け	9	19	29	39	49	け	手先が器用で、細かい作業をすることが得意な人、アイデアマンです
こ	10	20	30	40	50	こ	物事に熱心に取り組んだり、根気強く調べたり考えたりできる人です

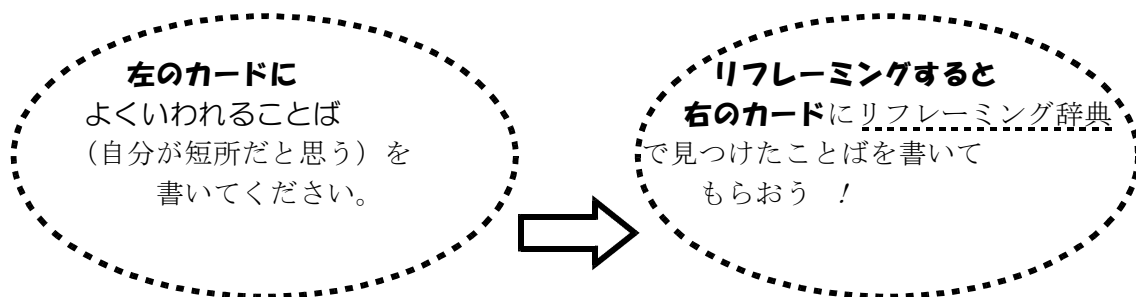
※ 堀川博基『職場体験プラスαの生き方学習～進路意識と人間関係能力をみがく』 実業之日本社2004 (p63)

リフレーミング

自分の性格や特徴を、否定的（ひていてき）にとらえがちな子どもがいます。特に自意識の高まってきたころに多くなりますね。皆さんはどうですか。でも、今日は、自分が短所だと思っているところが、見方によっては長所であるということに気づかせたいと思います。

そのように見方を変えることをリフレーミングといいます。
また、それは友だちとよいところを認め合う気持ちにもつながるんですよ。

あなたもやってみましょう！



例



<http://www.suginami6-e.suginami-ky.ed.jp/2007/hoken/kyouzai-parts/reframingcard.htm>

うんと自分のこと、友だちのことを好きになってね！
あなたのまわりで良いことがいっぱい起こるよ。

リフレーミング辞書

	書きかえたい語	リフレーミングすると		書きかえたい語	リフレーミングすると
あ	甘えん坊な	人にかわいがられる 人を信頼できる	き	気が強い	すべてに情熱的 弱音をはかない
	あきっぽい	好奇心おうせいな 興味が広い		気性が激しい	感受性が豊か 情熱的
	あきらめが悪い	一途(いちず)な チャレンジ精神のある ねばり強い		きつい感じの	するどい考えを持つ はっきりしている 冷静である
	あわてんぼう	行動的な 行動が速い		きびしい	責任感がある 自分に自信がある 妥協せず目標を追い求める
い	いいかげんな	こだわらない おおらかな	く	口がきつい	正直な・率直な
	意見が言えない	争いを好きじゃない ゆずり合う心がある		口が悪い	はっきりしている 素直に表現できる 正直な・率直な
	いばる	自信がある		口が軽い	うそのつけない 気持ちをすらすら言葉で 伝えられる 社交的な
う	浮き沈みが激しい	心豊かな・表情豊かな	け	口が軽い	うそのつけない 気持ちをすらすら言葉で 伝えられる 社交的な
	うるさい	明るい・活発な・元気 人なつっこい		口べたな	うそがつかない 言葉を選ぶのに慎重
お	おこりっぽい	感受性が豊か・情熱的 高い理想を持っている	け	暗い感じの	自分の心の世界を大切に す・もの静かで人を尊重 している・人を落ち着か せることができる
	おしゃべりな	誰とでも仲良くできる 人との会話を楽しめる		くよくよする	反省することができる
	おっとりした	マイペース 人と接するのが上手な 細かいことにこだわら ない		けじめがない	物事にこだわらない
	おとなしい	おだやかな 話を静かに聞ける		けちな	ムダづかいしない 細かいことを気にしな い・お金の使い方が上 手
	面白みがない	まじめである		計画性のない	物事にこだわらない
	おっちょこちょい	思ったことを行動にう つつす		強引な・強制	皆を引っ張る力がある エネルギーである
	か	かたくるしい		きまじめな	興奮しやすい
勝ち気な		向上心がある	こだわりやすい	ものを感じ取る能力が強 い・自分の考えを大切 にする・向上心がある	
カッとしやすい		情熱的な 正直な 感受性が豊か	ことわれない	相手の立場を考える 人のために尽くす 心の広い 優しい	
変わっている		味のある・個性的な	こ	こわがり	自分の弱さ、強さを知 っている
がんこな		意志が強い 信念がある 考えがはっきりしてい る			
がんばれない		無理しない			
き	気が弱い	人を大切にする 我慢ができる			

	書きかえたい語	リフレーミングすると		書きかえたい語	リフレーミングすると
さ	さわがしい	明るい 活発 元気	の	のんきな	マイペース 細かいことにこだわらない
	しつこい	ねばり強い		のんびりしている	マイペース 細かいことにこだわらない
し	自分がない	ゆずり合う心がある (協調性がある)	は	八方美人	人づき合いの上手な 誰とでも仲良くできる
	自慢する	自分の意見を言える 自分を好き		反抗的	自立心がる 自分の考えがはっきりしている
す	ずうずうしい	周りの人を大切にする 堂々とした	ひ	人づき合いが下手	自分を大切にしている 心の世界を大切にする こまやかな心を持った
	すぐに落ち込む	反省上手		一人になりやすい	自立している 独立心がある
せ	せっかちな	行動的な 行動が速い	ふ	人に合わせる	協調性がもてる
	責任感がない	無邪気な・自由な		人をうらやむ	理想がある 人の良いところを素直に認められる
そ	外面がいい	人と接するのが上手な	ち	ふざける	陽気で明るい 周りを楽しませる
た	だまされやすい	素朴な・純粋な 人を信じられる		プライドが高い	自分に自信がある 自分を大切にしている
	だらしない	こだわらない	ほ	ぼうっとしている	細かいことにこだわらない マイペース
短気な	おおらかな 心の表現が素直な 情熱的な	負けず嫌い		向上心がある がんばりや	
ち	調子に乗りやすい	雰囲気明るくする ノリがいい	ま	周りを気にする	心配りができる
	つ	つめたい		立ち直りが早い 冷静 客観的 知的 判断力がある	周りを気にしない
て		でしゃばりな	世話好きな 面倒見がよい	む	まじめ
	なまいきな	自立心がある	マイペース		自分を大切にする
な	悩みが多い	向上心がある	め	向こう見ず	思い切りがいい 行動的な 決断力のある
	涙もろい	人情味がある 感受性が豊か 感情を素直に表現できる 心のあたたかみがある か自分の世界を大切にする 細かいことにこだわらない 細かいことにこだわらない		無口な	おだやかな 話をよく聞く
ね	悩みがない	おおらか 周りの人を穏やかな気持ちにすることができる。	無理をしている	期待にこたえようとする ゆずり合う心がある	
	ねくらな	自分の心の世界を大切にしている。	命令しがちな	リーダーシップのある 自主性がある	
			目立たない	素朴な ゆずり合う心がある 和を大切にできる ひかえめ	

	書きかえたい語	リフレーミングすると		書きかえたい語	リフレーミングすると
め	目立ちたがる	自己表現が活発	ら	楽なことしかしない	利害を考えられる
	面倒くさがる	おおらか 細かいことにこだわらない		乱暴	たくましい
ゆ	優柔不断	じっくり考える 慎重 視野が広く, 多角的にものごとを判断できる	わ	忘れっぽい	細かいことにこだわらない かわいげがある
	よく考えない	行動的であり 直感にすぐれている 自分の直感を大切に する		わがまま	自分の意見をはっきり言う
よ	余裕がない	毎日精一杯生きている			
	弱虫	他人の意見を尊重して大切にしている			

<http://homepage2.nifty.com/gty/ref.dictionary.htm>

No.1

1 学年 組 名前

キャリア学習についてのガイダンスをはじめます！

- 1 キャリア学習を理解しよう
キャリアってなに？

career:

「その人なりのいい人生を送るための教育（学習）・いい職業」

No.2

- 2 人生の構成要素（人生における役割のことだよ）

- | | | | |
|------|-----|-------|------|
| ①子ども | ②学生 | ③ | ④ |
| ⑤ | ⑥ | ⑦ 余暇人 | ⑧ 市民 |

その人なりのいい人生ってなに？



- 3 いい人生を送るために大切なこと

- | |
|-------------------------|
| ① 自分を（ ）すること |
| ② 進路に関する（ ）を集めること |
| ③ 仕事などがわかるための（ ）をすること |
| ④ 人生の設計を話し合いや（ ）で修正していく |

【引用文献・参考文献】

- ・ 文部省『中学校学習指導要領』 平成10年
- ・ 文部科学省 『キャリア教育の推進の手引～児童生徒一人一人の勤労観, 職業観を育てるために～』
文部科学省 平成18年
- ・ 沖縄県教育委員会『沖縄キャリア教育推進プラン～児童生徒一人一人の自己実現をめざして』
沖縄県教育委員会 平成18年
- ・ 仙崎武監修 進路力を育てるネットワーク編者
『中学生の進路力を育てる総合的な生き方の学習プラン』 実業之日本社 2001
- ・ 鹿嶋研之助 『進路指導を生かす総合的な学習』 実業之日本社 2000
- ・ 三村隆男 『キャリア教育入門 その理論と実践のために』 実業之日本社 2004
- ・ 三村隆男編者『キャリア教育と道德教育で学校を変える！～コラボレーションによる授業改革～』
実業之日本社 2006
- ・ 堀川博基 『職場体験プラスαの生き方学習～進路意識と人間関係能力をみがく』
実業之日本社 2004
- ・ 吉澤昇・為本六花治・堀尾輝久著『ルソー エミール入門』 有斐閣新書 1978
- ・ 氏原寛他編『心理臨床大事典』(改訂版) 培風館 2004